

杏林大学（学士課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、かつ建学の精神に基づいて、崇高な人類愛と高度の科学精神を基盤とするすぐれた人材の育成を目的とし、もって広く人類の福祉に貢献することを使命とする。	杏林大学では、理念・目的に基づいた教育を行うため、学生が卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。 (1) 専門的な知識と技術・技能 専門領域における基本的かつ体系的な知識と技術・技能を修得し、また必要に応じてこれを実践できる。 (2) 問題解決能力 知識、技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (3) コミュニケーション能力 他者と考えや情報を共有し、協調・協働することにより、良好な対人関係を主体的に築くとともに、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (4) 高い倫理観と社会的責任能力 高い倫理観を持ち、規則を遵守し、地域社会の持続的発展のために、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (5) 自己表現力、情報発信力 他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を発信することで建設的な結論を導くことができる。 (6) 国際性とグローバル人材力 異文化を正しく理解することにより国際性を身につけ、多様な価値観を認識および尊重し、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。	杏林大学では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、各学部における授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、学部に応じた諸制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学への円滑な導入を図るために 学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように基礎的科目を配置する。 (1-2) 専門的な知識と技術・技能を修得するために 専門分野の体系に基づき、幅広い知識を身につけるとともに実践的な高度な技術・技能を修得するために、必修科目と選択科目を区別して配置する。 (1-3) 問題解決能力を修得するために 自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるための科目を配置する。 (1-4) コミュニケーション能力を修得するために 他者との意思疎通を図り、自らの考えを適切に伝えることのできる優れたコミュニケーション能力を涵養するための科目を配置する。 (1-5) 高い倫理観と社会的責任能力を修得するために 幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした高い倫理観を修得するために、各種科目を配置する。また、社会との関わりを学び、社会の持続的発展のため、自分の能力を役立てる積極性を修得するための科目を配置する。 (1-6) 自己表現力と情報発信力を修得するために 自己の考えを適切に表現する能力および収集した情報や履修した内容を広く他者へ発信する能力を修得するための科目を配置する。 (1-7) 国際性とグローバル人材力を修得するために 国際的視野を持ち外国語を活用して、グローバル社会で活躍することのできる能力を修得するための科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 専門的な知識と技術・技能を修得するために 専門的な知識と技術・技能の修得を図るために、講義・演習・実習を行う。この他、e-Learning、課題解決型学習(PBL:Problem/Project Based Learning)、CLIL(Content and Language Integrated Learning)などの教育方法を積極的に導入する。また、指導教員による個別指導もしくは少人数指導を行う。 (2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために 問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を導入する。また、個別指導による双方向講義や複合的なもの見方・考え方を養い客観的かつ高い意欲を持って問題解決能力を修得するための卒業研究などを積極的に導入する。 (2-3) コミュニケーション能力を修得するために 各種実習、インターンシップなどを通して、他者とのコミュニケーション能力の向上を図る。 (2-4) 高い倫理観と社会的責任能力を修得するために グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。 (2-5) 国際性とグローバル人材力を修得するために 国際的な視野を広げるとともにグローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。また実践性を重視した外国人教員による語学教育を行う。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA(Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 学年ごとに目標を設定して、その達成度を検証するために、学部・学科の特性に合わせた評価試験(共通テスト、CBT、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)など)を実施する。 (3-3) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程全体の成果を把握する。	本学の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人 (1-2) 他者の考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-3) 柔軟な思考力と知的探究心を持ち、判断力や表現力を駆使して自発的に問題解決につなげる意欲を持つ人 (1-4) 広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持ち、グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力・技能を有している。(知識・理解・表現力) (2-2) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-3) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に貢献する意欲や経験がある。(関心・意欲・経験) (2-5) 他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とのコミュニケーションを図ろうとする態度を有している。(協調性・コミュニケーション能力) (3) 入学者選抜の基本方針 本学の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般入試 一般入試試験の成績、調査書の内容等を総合して評価する。 (3-2) センター試験利用入試 センター試験の成績、調査書の内容等を総合して評価する。 (3-3) 外国人留学生入試 一般入試と同一の選抜方法、選抜基準により評価する。 (3-4) その他 学部、学科に応じて推薦入試、AO 入試、帰国子女入試、社会人入試における各々の選抜方法により評価する。

杏林大学 大学院（博士前期課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
大学院は、大学建学の精神に則り、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、優れた研究者及び高度専門職業人を養成することにより、文化の進展に寄与することを目的とする。	杏林大学大学院博士前期課程では、理念・目的に基づいた教育を行うため、学生が修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められた学生に、修士の学位を授与する。 (1)高度専門職業人としての知識と技術・技能 専門分野の理論や科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (2)課題解決能力 社会における課題を分析、処理し、広い視野と学際的な視点で解決することができる。 (3)研究遂行能力 テーマに基づき、論文執筆に至るまでの研究を遂行することができる。また、研究内容について説得力を持って発表することができる。 (4)高い倫理観と国際的視野 他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。	杏林大学大学院博士前期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。コースワークは講義・演習・実験などを適切に組み合わせ、専門知識や技術、実践能力の効果的な修得につながる授業を行う。これらの科目は、体系教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために 基盤となる理論や科学的根拠への理解を深めるとともに、技術・技能を修得し、高度専門職業人としての実践力と指導力を高めるために、各専門分野に多様な科目を配置する。 (1-2)課題解決能力を修得するために 専門領域の課題の解決に必要な広い視野と学際的識見を培うために、分野横断的な科目を配置する。 (1-3)研究遂行能力を修得するために 研究における問題点を自ら見出し分析するとともに、研究成果を適切に説明し、論文としてまとめることが出来るために、専門的な科目を配置する。 (1-4)高い倫理観と国際的視野を修得するために 他者を尊重し、理解することのできる高い倫理観と国際性を培うために、専門的な科目を配置する。 (2)教育方法 (2-1)高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために ・講義の他に実習や演習を実施する。 ・少人数授業体制による双方向性の教育を実施する。 ・指導教員による少人数指導を行う。 (2-2)課題解決能力を修得するために ・課題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実施する。 ・学術論文の抄読、プレゼンテーション、クリティカルな討論を積極的に取り入れる。 ・多様な専門職種の学生による集団討論を積極的に取り入れる。 (2-3)研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、研究指導や論文執筆・発表の指導を個別に行う。 ・研究報告会や論文発表会等で多様な専門分野の教員が指導する。 (2-4)高い倫理観と国際的視野を修得するために ・専攻・専門分野を超えて広く、国際的な視野、学際的識見を培うための教育方法を積極的に取り入れる。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1)履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2)学位論文発表会、修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	杏林大学大学院博士前期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)高度専門職業人への意欲 高度専門職業人を目指し、それに必要な専門知識や技術・技能を修得したいという意欲を持っている人 (1-2)研究遂行、課題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的・政策的に分析して解明する能力・技術を修得し、研究成果を実践活動に生かして諸問題を解決したいという意欲がある人 (1-3)国際性、学際性、社会貢献に対する関心 国際社会において発生する様々な課題に関心を持ち、課題解決に向けて多面的、学際的に取り組む意志を持つとともに、科学的基盤に立ち社会に貢献する意志を持っている人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識、技術・技能、態度を備えた人を求める。 (2-1)関連領域の専門的知識、技術・技能を有している。（知識・技術・技能） (2-2)課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得する意欲と能力を備えている（態度・思考力・判断力）。 (2-3)自らの研究的関心について背景や理由等を論理的に要約し、説明や質疑応答ができる。（知識、コミュニケーション能力） (2-4)主体性と協調性、積極性を持って、相互理解を深めることができる。（態度、協調性） (2-5)安易に妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。（継続性、態度） (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 志願する専門分野に関する専門科目、外国語試験、小論文、面接等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-2)社会人特別選抜 志願する専門分野の課題に対する小論文、英語問題、面接、成績証明書等の内容から、求める社会人学生像、資質、学習成果を評価する。 (3-3)その他 上記の他、留学生特別選抜、国際協力特別選抜が行われる。

杏林大学 大学院（博士後期課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
大学院は、大学建学の精神に則り、専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、優れた研究者及び高度専門職業人を養成することにより、文化の進展に寄与することを目的とする。	杏林大学大学院博士後期課程では、理念・目的に基づいた教育を行うため、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められた学生に、博士の学位を授与する。 (1)高度専門職業人としての知識と技術・技能 専門分野の理論や科学的根拠を深く理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (2)課題解決能力 社会における課題を分析、処理し、広い視野と学際的な視点で解決することができる。 (3)高い研究遂行能力 テーマに基づき、博士論文執筆に至るまでの研究を遂行することができる。また、高いプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容について説得力を持って発表することができる。 (4)高い倫理観と国際的視野 豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。	杏林大学大学院博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために 専攻する専門分野の近年の研究動向、最新知見、理論、技術などの最新の専門知識を修得するための科目を配置する。また基盤となる理論や科学的根拠への理解を深めるとともに、技術・技能を修得し、高度専門職業人としての実践力と指導力を高めるために、各専門分野に多様な科目を配置する。 (1-2)課題解決能力を修得するために 専門領域の研究課題を設定し、その課題追及・解決に必要な広い視野と高い学際的識見、科学的思考力を培うために、各専門分野に講義科目、セミナーを配置する。 (1-3)高い研究遂行能力を修得するために 研究における問題点を自ら見出し分析するとともに、研究成果を適切に説明し、博士論文としてまとめることが出来るために、専門的な科目を配置する。 (1-4)高い倫理観と国際的視野を修得するために 他者を尊重・理解し、社会的責任を果たすことのできる高い倫理観と世界の先進的な研究内容を学び国際性を培うために、専門的な科目を配置する。 (2)教育方法 (2-1)高度専門職業人としての知識と技術・技能を修得するために ・講義の他に実習、演習、e-learningを実施する。 ・少人数授業体制による双方向性の教育を実施する。 ・指導教員による個別指導もしくは少人数指導を行う。 ・ライブイベントによらない視聴覚教材を用いた効率的な学習を可能にする。 (2-2)課題解決能力を修得するために ・課題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実施する。 ・学術論文の抄読、プレゼンテーション、クリティカルな討論を積極的に取り入れる。 ・多様な専門職種 of 学生による集団討論を積極的に取り入れる。 (2-3)高い研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、個別に研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・研究報告会や論文発表会等で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (2-4)高い倫理観と国際的視野を修得するために ・専攻・専門分野を超えて広く、国際的な視野、学際的識見を培うための教育方法を積極的に取り入れる。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しい高いレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1)履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2)学位論文発表会、博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	杏林大学大学院博士後期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)高度専門職業人への意欲 高度専門職業人を目指し、それに必要な専門知識や優れた技術・技能を修得したいという意欲を持っている人。また、その学問的基盤を確立し、その基盤となる素養や能力を培う意欲を持っている人。 (1-2)研究遂行、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的・政策的に分析して解明する能力・技術を修得し、独創的な研究に取り組むとともに研究成果を実践活動に生かして諸問題を解決したいという意欲がある人。 (1-3)国際性、学際性、社会貢献に対する高い関心 国際社会において発生する様々な課題に幅広い関心を持ち、課題解決に向けて多面的、学際的に取り組む意志を持つとともに、科学的基盤に立ち社会に貢献する意志を持っている人。 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識、技術・技能、態度を備えた人を求める。 (2-1)関連領域の専門的知識、高い技術・技能を有している。（知識・技術・技能） (2-2)課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得する意欲と能力を備えている（態度・思考力・判断力）。 (2-3)自らの研究的関心について背景や理由等を論理的に要約し、十分な説明や質疑応答ができる。（知識、コミュニケーション能力） (2-4)主体性と協調性、積極性を持って、相互理解を深めることができる。（態度、協調性） (2-5)妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。（継続性、態度） (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 志願する専門分野に関する専門科目、外国語試験、小論文、面接等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-2)社会人特別選抜 志願する専門分野の課題に対する小論文、英語問題、面接、成績証明書等の内容から、求める社会人学生像、資質、学習成果を評価する。 (3-3)その他 上記の他、留学生特別選抜試験が行われる。

杏林大学 医学部 医学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
医学部の理念・目的は「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の習得と臨床的技術の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。この理念の意味するところは、真理への謙虚な探究心の育成、善なる社会人の養成、そして美しい専門的技量の研磨ということである。	教育理念・目的実現のため、医学部は「医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任ある行動ができること、医師としての基本的な医学的知識及び技能を修得していること、的確かつ冷静な問題抽出・解決能力を備えていること、患者・家族との信頼関係の構築とともに、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけていること、公衆衛生や医療制度など社会と医師との関わりを理解していること」を教育目標と定める。医学部学生は卒業までにこの目標に到達することが求められる。	医学部医学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらすべてを修得したと認められる学生に学士(医学)を授与する。 (1) 医師の社会的責任 医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任のある行動ができる。 (2) 医学知識と技能 医師に求められる基本的な医学的知識及び技能を修得し、また必要に応じてこれを実践できる。 (3) 問題解決能力 どのような状況においても事態を冷静に把握し、解決すべき問題を明らかにしたうえで的確な判断を行うことができる。 (4) コミュニケーション能力 患者・家族との信頼関係を構築するとともに、医療・介護・保健従事者と良好な関係を維持し、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーションを図ることができる。 (5) 医学・医療と地域・社会との関わり 公衆衛生や医療・保健制度など社会と医師との関わりを理解し、必要に応じてそこで医師が果たすべき役割を担うことができる。 (6) 英語運用能力 グローバルに活躍しうる英語運用能力を有する。	医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、外国語、基礎医学、社会医学、臨床医学の5つの科目区分からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号を各科目に付し、これを以てカリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの体系をわかりやすく示す。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、担任制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 医師の社会的責任を修得するために 医師に求められる倫理観や基本的姿勢の涵養とともに、医師に求められる基本的な教養を修得するため、「医療科学」において、「医療と文化」「医療と社会」などの授業を配置する。 (1-2) 医師のキャリア教育のために 医師としての多様な働き方を学び、将来設計に資するように、「医療科学」において「キャリアデザイン、ワークライフバランス」に関する授業を配置する。 (1-3) グローバルに活躍し得る医師の育成のために 卒業後、グローバルに活躍し得る医師を育成するべく、6年間の医学教育を、国際基準に準拠した医学教育カリキュラムに則って実施する。 (1-4) 高校から大学への円滑な移行を図るために ・高校から医学教育への円滑な移行を図るため、医学部の教育目標を踏まえ「化学」、「生物学」、「物理学」を医学準備教育科目として配置する。 ・各学生が入試で選択しなかった科目への対応として、初年次の医学準備教育において、「入門化学」、「入門生物学」、「入門物理学」を開講する。 (1-5) 基礎医学を修得するために 人体の構造と機能、さらに人体における異常の発生とその制御を学ぶために、「解剖学」「生理学」「生化学」「病理学」「薬理学」などの基礎医学科目を体系的、順次的に配置する。 (1-6) 臨床医学の知識と技能を修得するために 医師に必要なとされる臨床医学の知識および技能を修得するために、臨床医学科目および臨床実習科目を体系的に配置する。 (1-7) 問題解決能力の涵養のために 医師に求められる課題発見・問題解決能力の涵養のため、「プレチュートリアル」「チュートリアル」科目を配置する。 (1-8) コミュニケーション能力の涵養のために 医師に求められるコミュニケーション能力の涵養のため、「医療科学」においてコミュニケーションについての実践的授業を配置する。 (1-9) 医学・医療と地域・社会との関わりを修得するために ・医学・医療と社会との関わりを学ぶために「衛生学」「公衆衛生学」「法医学」などの社会医学科目を体系的に配置する。 ・地域の保健、医療、福祉の実情を知るとともに、医学・医療と地域社会との関わりを学ぶために、「地域と大学」を開講する。 (1-10) グローバルに活躍する医師に必要な英語運用能力を修得するために グローバルに活躍し得る医師に求められる英語運用能力を修得するための英語学習プログラムを実施する。 (2) 教育方法 (2-1) 医師に求められる倫理観や姿勢、コミュニケーション能力の修得のために 医師に求められる倫理観や基本的姿勢、コミュニケーション能力の修得を目的として、「医療科学」では、講義に加えて演習形式の授業を適宜配置する。 (2-2) 基礎医学を修得するために 医学準備教育科目、基礎医学科目、社会医学科目については、学習内容の確実な理解を目的として、講義および実習を効率的に組み合わせる実施する。 (2-3) 臨床医学の知識と技能を修得するために 臨床医学科目については、基本的な知識を確実に修得したうえで、実際の臨床の場での応用力を涵養するとともに、基本的な臨床技能を修得する目的で、講義や見学型の臨床実習に加えて、臨床参加型の臨床実習を積極的に配置する。 (2-4) 医師としてのグローバルな適応能力を涵養するために 活動体験・現場体験を通して、コミュニケーション能力を含む医師としてのグローバルな適応能力を涵養するために、海外の医療施設でのクリニカルクラークシップの機会を提供する。 (2-5) 問題解決能力の涵養のために 医師に求められる高い課題発見能力と問題解決能力の涵養を目的として、少人数グループワークによる能動的学習(アクティブラーニング)を複数学年にわたって実施する。 (2-6) 医学・医療と地域社会との関わりを修得するために 地域の保健、医療、福祉の実情を知るとともに、医学・医療と地域社会との関わりを学ぶために、地域の現場体験を含む少人数グループワークによる能動的学習(アクティブラーニング)を実施する。 (2-7) グローバルに活躍する医師に必要な英語運用能力を修得するために グローバルに活躍する医師に求められる卓越した英語運用能力を効率的に修得するため、能力別の少人数クラスによる授業を実施するとともに、各学生の将来の進路に応じた目的別の少人数クラスによる授業も行う。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学年終了時に、国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 臨床医学実習開始前には、コンピューターを用いた CBT(Computer Based Testing)により臨床医学の知識を、実技試験である OSCE(Objective Structured Clinical Examination)により臨床技能および態度を評価し、これに合格し「student doctor」の称号を得た者が、臨床実習への参加を許される。 (3-3) 臨床医学実習については評価表に基づく指導医の評価やポートフォリオの評価など、多様な方法で成果の測定を行い、その詳細は履修案内・授業内容(シラバス)に記載する。 (3-4) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	医学部医学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲ある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 生涯を通じて医師として他人のため、社会のために奉仕する強い意欲をもつ人 (1-2) 生命の尊厳を導ぶ心をもつとともに、高い倫理観と豊かな人間性を備えた人 (1-3) 協調性と高いコミュニケーション能力をもち、周囲の人と良好な関係を築ける人 (1-4) 柔軟な思考力と知的探究心をもち、生涯を通じて医学の修得・研鑽に熱意をもって取り組める人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の学修に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・高等学校で履修する数学、理科、英語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な英語力及び日本語運用力と表現力を身につけている。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(表現力) (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5) 積極的に他者とのかわり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) AO 入試 志望理由書、推薦書、面接の内容、小論文、調査書および基礎学力の状況を総合して入学の適性を評価する。 (3-2) 一般入試 一般入試試験(数学、理科、英語)の成績、小論文、面接、調査書の内容を総合して評価する。 (3-3) センター試験利用入試 センター試験(数学、理科、英語)の成績、小論文、面接、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) 外国人留学生入試 一般入試と同一の選抜方法、選抜基準により評価する。

杏林大学 保健学部 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。	保健学部は、高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に学士の学位を授与する。 (1)各学科に求められる基本的かつ実践的能力 各学科で求められる基本的知識および技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。 (2)問題解決能力 自ら発見した問題や課題について、科学的かつ客観的に説明を加え、論理的に問題を解決できる。 (3)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力 患者を中心とするチーム医療の一員および養護教諭や社会福祉士として他の医療従事者と連携・協働できる (4)高い倫理観と社会的責任遂行能力 高い倫理観を持ち、医療専門技術職が地域社会に求められる能力を身につけ、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (5)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力 幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる。	保健学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、4年間の学習分野を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け、それぞれを構成する科目を学年進捗と共に理解の深まるよう体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。学年進捗に伴うカリキュラム体系の理解を深めるために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、段階的科目理解度を高めるための模範的履修およびカリキュラム構造を示す「履修モデル」を明示する。さらに、各系統(科目群)別に段階的科目理解度を高めるための「学習目標」と「学年進捗と履修科目との関係」とを示す「履修系統図」を明示する。また、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高校から大学への円滑な導入を図るために 幅広い分野にわたる教養、専門的な知識を学ぶ上で基礎となる学力を身につけるための科目を学科の特性に応じて配置する。また、医療人としての役割、やりがい、面白さへの理解を促し学業への意欲を高めるための科目を配置する。これらを通してこれから学ぶべき種々科目の基本的事項ならびに職業イメージなど4年間の学びの動機付けを行う。 (1-2)確かな専門知識と実践的能力を修得するために 医療従事者および専門家に必要な医療知識の修得を目的とした講義科目、および実践できる能力を身につけるために実習科目や演習科目を配置する。また、最新の医療知識や技術に対応できるよう専門性の高い講義科目を配置し、これらを通して総合的な解釈・判断能力を身につける。 (1-3)問題解決能力を修得するために 医学及び医療技術の進捗に伴う諸問題に自ら気付き、学んできた内容を生かして、自ら進んで問題を解決する能力を修得するための科目を配置する。 (1-4)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力を修得するために 患者を中心とするチーム医療の一員および養護教諭や社会福祉士として幅広いコミュニケーション能力と他の医療従事者と連携・協働できる能力を養うために病院等の施設見学の機会や「臨床実習」および「養護実習」を配置する。これにより使命感、倫理観、責任感などの豊かな人間性も身につける。 (1-5)高い倫理観を修得し、社会的責任遂行能力を修得するために 幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を修得するために教養基礎科目を配置する。また、高い倫理観に基づき、医学および保健衛生学領域における社会的責任遂行能力を身につけるために「地域と大学」を配置する。 (1-6)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力を修得するために 幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解するために人文・社会系科目等を配置する。また、幅広いコミュニケーション能力を修得し、グローバル化に対応するために専門性の高い外国語科目も配置する。 (2)教育方法 (2-1)確かな専門知識や実践的能力を修得するために 医学、医療分野の専門を学び演習および実験でグループディスカッションを通じて複合的なものの見方、考え方を養う。また、高度な専門技術を修得し、得られた知識を統合的に理解し、現場の課題を体感するために、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。 (2-2)コミュニケーション能力・問題解決能力を修得するために チーム医療へ貢献する人材としてのコミュニケーション能力や自己表現力、主体的な問題解決能力を修得するために、能動的学修(アクティブラーニングなど)を積極的に授業に取り入れる。また、複合的なものの見方、考え方を養い客観的かつ高い意欲を持って問題解決能力を修得するために卒業研究を導入する。 (2-3)コミュニケーション能力を生かし医療・保健へ貢献する能力を修得するために 「臨床実習」を通じて、臨床現場で求められるチーム医療に必要な態度・技術・知識などを習得する。また、「病院見学」など施設見学・体験学習および「養護実習」などの実践型実習において他職種と接することで、コミュニケーション能力の向上を図る。 (2-4)高い倫理観を修得し、社会的責任遂行能力を修得するために 地域における医療人としての役割を理解し、高い倫理観を養うためにソーシャル・ラーニング(社会学修)を積極的に導入する。 (2-5)国際的な視野を広げるために グローバル社会での適応能力および国際貢献を考える機会を与えるために海外研修を積極的に導入する。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な評価指標であるGrade Point Average (GPA)で評価する。 (3-2)卒業研究において、所属するゼミでの評価や研究発表を基準に沿って評価することで、研究的態度や専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を評価する。 (3-3)外部機関が作成した全国模擬試験を活用し、全国水準の測定を行う。 (3-4)大学IRコンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部は、学部の理念・目的を理解し、その達成に向けて真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人 (1-2)科学的視点を持ち合わせ、様々な現象について関心、興味が持てる人 (1-3)高い倫理観と職業意識を持ち、さらにあらゆる世代の人々と積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を持つ人 (1-4)疑問点などをそのまま放置せず、解決に向けた努力を怠らない人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人材を求める。 (2-1)入学後の学修に必要な基礎学力としての知識や表現力を有している。(知識・理解・表現力) ・高等学校で履修する国語、社会、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・日本語による文書作成、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を十分身につけている。 (2-2)他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とのコミュニケーションを図った経験と有している。(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力) (2-3)積極的に人と関わりを持ち、対話などを通じて相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (2-4)保健・医療・福祉のみならず、教育や文化などに関わる社会の諸問題に関心があり、自らが積極的に関わっていかうとする意欲がある。(意欲・関心) (2-5)自分の考えを的確に表現し伝えることができる。(技能・表現力) (3)入学者選抜の基本方針 本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入学試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 適性検査、面接および成績評価証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6)外国人留学生入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。

杏林大学 総合政策学部 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
総合政策学部は、教育の本質を「総合的な教養」と「実践力」の涵養と考える。本学部はかかる教育の実現を目指し、単眼的な専門的知識のみに捉われない学際的教育を通じて、あらゆる社会科学の観点から複眼的・多角的に社会事象を考察・分析・評価し、さまざまな社会問題の解決に向けて行動する能力を備えた人材を育成することを目的とする。	総合政策学部は、教育目標を学際性豊かな知識を有し、複眼的な視点から社会現象を捉えることができること、解決すべき問題を客観的に分析する洞察力と、的確な判断をもって行動できるだけの知識運用力を身につけていること、他者とコミュニケーションを図り、多様な価値観を認識でき、かつ社会の一員として信頼される人間性を有すること。	総合政策学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。 (1) 多角的視野 社会のしくみやあるべき政策に関する諸問題を、一つの世界観に固執することなく、多角的視点からその多様性においてとらえることができる。 (2) 幅広い教養 高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。 (3) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力 問題を発見し、その本質を理解し、客観的な分析に基づいて判断し、その結果を適切に人に伝えることができる。 (4) ビジネス・ベーシック・スキル 読解力、文章力などの基礎的な能力や時事問題に対する常識的知見など、社会人として求められる基本的な能力・知識を身につけ、実践で活用できる。 (5) ライフ・デザイン・スキル 社会の一員としての自己の存在とその役割を、学問的視点に加えて、地域におけるより実践的な学びを通して、経験し、理解できる。 (6) 学際性の軸となる専門的な知識 学際的な視点を持って問題を解決するための軸となる専門知識を修得し、活用できる。	総合政策学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目等の分野から成る授業科目を体系的かつ学際的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP 制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。 教育内容、教育方法、および成果の測定については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 大学での学びへの円滑な導入を図るために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。 (1-2) 多角的視野を涵養するために ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。 ・主コースを選択し、専門性を高めながら、他コースの科目の履修を促すことで多角的な視野を涵養する。 (1-3) 幅広い教養を身につけるために ・高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うために「一般教養科目」分野に科目を配置する。 ・「ベーシック科目」群および「プレゼミナール」を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。 (1-4) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力を育むために ・社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をするために、実践的な問題を中心にテーマを選定し、テーマに沿った授業が行われる「演習」、「卒業研究」などを配置する。 ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。 (1-5) 社会人としての基本的な能力を修得するために ・国内外の社会問題に対する基本的な知見を身につけるために「時事問題研究 A、B」を1 年次に配置する。 ・社会で必要とされる思考力や文章能力に欠けることのないよう、「計算力演習Ⅰ、Ⅱ」および「ライティング演習Ⅰ、Ⅱ」を2 年次に配置する。 (1-6) 自分のキャリアを描く能力を身につけるために ・「ライフ・プランニングⅠ、Ⅱ」を1 年次に配置する。 ・さまざまな分野で活躍する人々の知見に接し、かつ面接やグループ・ディスカッションなどを念頭に実際の就職活動をシミュレーションとして経験できるように「キャリア開発論Ⅰ、Ⅱ」「キャリア開発演習Ⅰ、Ⅱ」を3 年次に配置する。 ・身近な社会との連携の中で自己のキャリアを考え、経験できるよう「地域と大学」を1 年次に配置し、2 年次からインターンシップを配置する。 (1-7) 学際的学びの軸となる専門的知識を身につけるため ・各学科、コースに求められるコアとなる知識と、応用的な知識を身につけるための科目を「コア科目」群、「応用科目」群に分類し、必修科目と選択科目を区別し、順次性に配慮して配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 学際性を重視した教育を行うため ・ベーシック科目 7 科目のうち、5 科目を選択必修とし、コースの選択のみならず、さまざまな分野に関してその概要を学んだ経験を持たせる。 ・専門科目の履修に際しては、各学科の各コースに設置された専門科目を、学科横断的、コース横断的にさまざまなパターンで履修できるようにする。 (2-2) 社会のグローバル化への要請に対応するため ・グローバルキャリア・プログラムにおいては、ネイティブの教員、オンライン英会話等、実践性を重視した英語教育を行う。 ・グローバルキャリア・プログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。 (2-3) 高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に、国際的な成績評価指標である GPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 入学時と卒業時の2 回にわたって、教育課程が達成した成果に関する学生自己評価調査を行う。 (3-3) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	総合政策学部は、本学部の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人 (1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人 (1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人 (1-5) 政治・経済・法律・国際関係・福祉・経営および会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3) 自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-4) 社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3) 入学者選抜の基本方針 本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接、小論文、調査書および資格・検定試験等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、課題、小論文、適性検査、活動報告書および実技等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接及び成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 入学試験(日本語)または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 外国語学部 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
外国語学部は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。	外国語学部は、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。 (1)卓抜した外国語運用能力 ・母語だけではなく2つの外国語(特に英語・中国語)を実践的かつ高度に運用できる。 (2)コミュニケーション能力 ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (3)問題解決能力 ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (4)自己表現力・情報発信力 ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。 (5)異文化理解とグローバル人材力 ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 (6)高い倫理観と社会的責任遂行能力 ・相互に関連するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (7)専門的な知識・技術・技能と活用力 ・実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。	外国語学部では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士の学位を授与する。 (1)卓抜した外国語運用能力 ・母語だけではなく2つの外国語(特に英語・中国語)を実践的かつ高度に運用できる。 (2)コミュニケーション能力 ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (3)問題解決能力 ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (4)自己表現力・情報発信力 ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。 (5)異文化理解とグローバル人材力 ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 (6)高い倫理観と社会的責任遂行能力 ・相互に関連するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (7)専門的な知識・技術・技能と活用力 ・実社会の中で必要な基礎専門能力を修得し、それを発展的に活用することができる。	外国語学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目として専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP 制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語(英語・中国語)の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム(Practical English Program, Chinese for International Communication)を実施する。 ・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」を配置する。 ・高度な英語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」などを配置する。 ・実践的な中国語運用能力を高めるため、「中国語Ⅰ～Ⅵ」を配置する。 ・高度な中国語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別中国語演習Ⅰ～Ⅴ」などを配置する。 (1-2)コミュニケーション能力を修得するために ・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。 ・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。 (1-3)問題解決能力を修得するために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 ・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。 (1-4)自己表現力・情報発信力を修得するために ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを旨とし、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 (1-5)異文化理解とグローバル人材力を修得するために ・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。 ・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジア・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。 (1-6)社会的責任遂行能力を修得するために ・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。 ・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。 (1-7)専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために ・各学科、コースに求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。 ・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。 (2)教育方法 (2-1)グローバル社会での適応能力を修得するために ・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。 (2-2)高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-3)社会的責任遂行能力の修得のために ・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。 (2-4)卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL(Content and Language Integrated Learning)手法を積極的に導入する。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2)外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。 (3-3)入学時基礎学力測定、大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。	外国語学部と各学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)実践的な外国語運用能力を身につけ、グローバル化する実社会で活躍する仕事に就く意欲がある人 (1-2)外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-3)外国語学部の各学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人 (1-4)外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人 (1-5)グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 ・基本的な英語力を身につけている。具体的には、(公財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級以上に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や言語運用能力を有している。(知識・理解・言語運用能力) ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、文章読解力、課題に応じて内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 ・基本的な英語力を身につけている。具体的には、英語学科、観光交流学科の場合は、(財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。 (2-2)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-3)知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-4)教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に対する関心を持ち、課外活動・社会的活動・国際的経験を積んだことがある。(関心・経験) (2-5)積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3)入学者選抜の基本方針 本学部の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 面接、小論文および調査書、活動報告書、資格・検定試験等の結果の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO入試 面接および課題、調査書の内容から、または学習・活動歴(ルーブリック)、プレゼンテーションおよび小論文、調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(外国語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 面接および成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6)社会人入試 面接および小論文、学業成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-7)外国人留学生入試 入学試験(中国語学科と観光交流文化学科の場合は日本語、英語学科の場合は英語)、または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 大学院 医学研究科（博士課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
医学研究科は、科学的な問題解決能力を備える臨床医、旺盛な創造性を持つ基礎医学・生命科学の研究者、社会医学に貢献する有為な人材等豊かな人間性と倫理観・使命感にあふれる医療人の養成を目的とする。	医学・医療の各領域で指導的な役割を果たすべく、当該領域に関する高度な専門知識・技能を含む豊かな学識を備えるとともに、自立した研究者として研究活動を行うための基本的な研究能力を、自らの研究の実施と論文執筆を通して証明できること。	医学研究科では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士(医学)の学位を授与する。 (1)社会的責任 ・豊かな人間性、幅広い学識、高い倫理観を身につけ、医学・医療の分野において指導的な役割を担うことができる。 (2)知識と専門技術 ・各専門領域に関する専門的知識と技術を身につけ、実践に活かすことができる。 (3)専門分野の情報収集と分析 ・医学・医療に関わる諸分野に関して、適切な情報の収集と分析ができる。 (4)問題解決能力 ・医学・医療分野に関わる課題を設定して、その課題追求のための研究計画を策定し、適切に研究を遂行できる。 (5)情報発信力 ・研究によって得られた知見を客観的に評価し、研究論文として発信できる。 ・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけ国際学会や国際誌に、研究内容を説得力を持って発表することができる。	医学研究科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、主科目、共通科目の2つの区分からなる授業科目を編成し、コースワークとリサーチワークを組み合わせた教育を行う。主科目(専門科目)を体系的かつ順次的に編成し、講義、実験、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。共通科目は体系的に編成し、専門以外の幅広い学識の獲得を可能にする。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)社会的責任を果たすために ・高い倫理観を身につけるため、基礎臨床共通講義Ⅰでは、「動物実験に関する基本的事項」「医学研究の倫理」などの初期教育を充実させる。 ・研究倫理についての e-learning (CITI Japan)を取り入れる。 ・一般教養の習得のために基礎臨床共通講義ⅠとⅡを実施し、専門分野に関わらず、「疫学研究の基礎」「がん治療の現状と将来」などの講義を行う。 ・世界の先進的な研究者の研究内容を学ぶため、Henry Stewart Talks の視聴を基礎臨床共通講義Ⅱとして認める。 (1-2)知識と専門技術を身につけるために ・専門科目の知識と技術の習得のために、講義・演習は初年度、実験・実習は1～2年次に終了するよう配置する。 (1-3)専門分野の情報収集と分析法を習得するために ・基礎臨床共通講義Ⅰで、「医学文献収集管理の技術」「実験データのデジタル画像処理・解析」を実施する。 ・基礎臨床共通講義Ⅰでは「統計解析セミナー」を行い、エクセル、SPSSを用いた演習を行う。 (1-4)問題解決能力を獲得するために ・研究課題の設定、その課題追求のための研究計画の策定、計画に沿った適切な研究の遂行、研究結果の分析を、主科目の課題研究を通じて、2～3年次に行うよう配置する。 (1-5)情報発信力を身につけるために ・基礎臨床共通講義Ⅰでは、「論文作成の基本技術」「研究成果発表の技術」の講義を配置する。 ・設定した研究課題の結果を論文にまとめるため、主科目の研究論文演習を配置する。 (2)教育方法 (2-1)知識を身につけるために 通常の講義の他に、e-learning を積極的に取り入れる。 (2-2)専門技術を身につけるために 専門科目は、指導教員の個別指導もしくは少人数指導を行う。 (2-3)専門分野の情報収集と分析法を習得するために PC 室での演習など、アクティブラーニングを積極的に取り入れる。 (2-4)情報発信力を身につけるために 個別指導による双方向講義を取り入れる。 (2-5)ライブイベントによらない効率的な学習を可能にするために 育児・介護など通学が困難な学生には、基礎臨床共通講義の録画の DVD を貸し出し、自宅での視聴を認める。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力等が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果があがっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 研究倫理が身についたことを測定するため、CITI Japan の試験を導入する。 (3-3) 中間報告会と学位論文審査において、卒業認定・学位授与の方針で示した能力が身についているかを測定する。	医学研究科は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質をもつ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1) 医学・生命科学の研究者として独創的な研究に取り組む意思を持っている人 (1-2) 高度な医学的知識と技能を持ち、かつ科学的な見地に立って臨床医学を極める意思を持っている人 (1-3) 高度な医学的、科学的基盤に立って社会医学に貢献する意思を持っている人 (1-4) 将来的に指導的立場に立ち、後進の育成に貢献する意思を持っている人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・専門分野の論文を理解できる英語力と、その内容をまとめる力を持っている。 ・専門分野の基礎知識と、それを説明できる力を持っている。 (2-2) 知識・技能を活用して、自らの課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(表現力) (2-4) 医学、医療、人間、自然、文化などに関わる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5) 積極的に他者とかかわり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協調性) (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般入試 入学試験(英語および専門科目)、面接試験の成績をあわせて評価する。 (3-2)社会人入試 入学試験(英語および専門科目)、面接試験の成績をあわせて評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士前期課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められた学生に、修士（保健学/看護学）の学位を授与する。 (1)保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人としての知識 ・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (2)保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人としての技術 ・専攻する専門分野の高度な技術を修得し、高度専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導・教育の役割を担うことができる。 (3)医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 ・患者の病態を理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たすことができる。 ・組織的なマネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。 (4)課題解決のための広い視野と学際的識見 ・保健、医療、看護、福祉領域の諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決には、保健、医療、看護、福祉の連携と協調が必要であることや、他の学問領域の視点で見ることが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (5)研究遂行能力 ・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。 (6)高い倫理観と国際的視野 ・他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。	保健学研究科博士前期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために保健、医療、看護、福祉領域に 2 専攻7専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づきコースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。コースワークは、講義、演習、実験、実習などを適切に組み合わせ、専門知識や技術、実践能力の効果的な修得につながる授業を行う。科目は、体系的に理解できるようカリキュラムマップにより可視化する。保健、医療、看護、福祉は、研究においても実践においても連携や協調が必要であること、また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから専攻や専門分野を超えた履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人としての知識を修得するために ・学部で修得した専門知識をブラッシュアップし、高度専門職業人としての実践力の基盤となる理論やメカニズム、科学的根拠への理解を深め、臨床応用・発展させるための科目を配置する。 (1-2)保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人としての技術を修得するために ・高度専門職業人としての実践力のレベルアップを目指すとともに、現場での指導・教育力を高めるための科目を配置する。 (1-3)医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力を高めるために ・臨床的判断力を高め、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての実践力を修得するための科目を配置する。 ・事象の発生要因の分析方法や対策の立案、実施、評価、見直しなど、組織的なマネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を修得するための科目を配置する。 (1-4)課題解決のための広い視野と学際的識見を培うために ・保健、医療、看護、福祉領域の諸課題解決に必要な広い視野と学際的識見を培うための科目を配置する。 (1-5)研究遂行能力や倫理観、国際的視野を獲得するために ・研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際に必要な能力を修得し、研究者としての倫理観と国際性を培うために、リサーチワークとして「特別研究」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人としての知識と技術、臨床判断力やマネジメント力を修得するために ・少人数授業体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業展開で能動的学修（アクティブ・ラーニング）を促進する。 (2-2)課題解決のための広い視野と学際的識見を培うために ・専攻・専門分野を超えて広く、保健・医療・看護・福祉の分野にわたる学際的識見を培うための教育方法を積極的に取り入れる。 ・研究科共通科目における多様な専門職種 of 学生による集団討論を積極的に取り入れる。 (2-3)研究遂行や、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得するために ・指導教員がきめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 修士論文発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	保健学研究科博士前期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1) 保健・医療・看護・福祉領域の専門分野の知識や技術をより高めたいという意欲を持っている人 (1-2) 保健・医療・看護・福祉とその関連領域の問題や課題に関心を持ち、研究的に解明・解決したいという熱意を持っている人 (1-3) 保健・医療・看護・福祉領域の職業人としての指導力をつけるために、広い視野とマネジメント力を培いたいという意欲を持っている人 (1-4) 保健・医療・看護・福祉領域の教育・研究者を志向し、その基盤となる素養や研究力を培いたという人 (1-5) 大学院での学修や研究成果を社会に還元し、保健・医療・看護・福祉領域の改善や進歩に貢献したいという熱意を持っている人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 保健、医療、看護、福祉とその関連領域の学士あるいは、それと同等の基礎学力および英語力を有する。（知識・技能） (2-2) 保健、医療、看護、福祉領域の専門的知識・技術を有する。（知識・技能） (2-3) 自らの研究的関心について背景や理由等を論理的に要約し、説明や質疑応答ができる。（能力） (2-4) 主体性と協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。（態度） (2-5) 虚偽や曖昧さを許さず、真摯に忍耐強く研究に取り組むことができる。（態度） (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 ・志願する専攻・専門分野に関する専門問題、英語問題、面接から、求める学生像、資質および学習成果を評価する。 (3-2)社会人特別選抜 ・志願する専攻・専門分野の課題に対する小論文、英語問題、面接から、求める社会人学生像、資質および学習成果を評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士後期課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科博士後期課程では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士（保健学/看護学）の学位を授与する。 (1) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の最新知識 ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。 (2) 高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 臨床的判断力を修得し、チーム医療のメンバーとして重要な役割を果たすことができる。また、組織のマネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められる高いマネジメント力を発揮できる。 (3) 先行研究を批判的に吟味できる能力 ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。 (4) 専門分野における課題発見能力 ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。 (5) 研究遂行能力 ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。 (6) 高い倫理観 ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。	保健学研究科博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、保健、医療、看護、福祉領域の2専攻6専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。コースワークは講義と演習を適切に組み合わせ、専門知識の効果的な修得につながる授業を行う。これらの科目は体系的に理解できるよう、カリキュラムマップにより可視化する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の最新知識を修得するために ・専攻する専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの最新専門知識を修得するための科目を配置する。 (1-2) 高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力を修得するために ・専攻する分野における臨床の現場で求められる判断力や、組織を動かすマネジメント力を修得するための科目を配置する。 (1-3) 先行研究を批判的に吟味できる能力を培うために ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味できる能力を修得するための科目を配置する。 (1-4) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を培うために ・研究課題発見能力として求められる、学際的・国際的な視野での科学的思考力と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を培うための科目を配置する。 (1-5) 研究遂行能力や高い倫理観、国際的視野を培うために ・自ら発見した課題の解決に向け、自立して行える研究遂行能力、論文執筆力、論文発表の際に必要な能力を修得し、研究者としての高い倫理観と国際性を培うために、リサーチワークを配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を培うために ・学術論文の抄読、プレゼンテーション、クリティカルな討論を積極的に取り入れる。 ・問題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-2) 研究遂行や、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 専攻する専門分野における研究課題発見能力の評価 ・集団討論、口頭試問への解答、筆記試験、レポートなど複数の方法で、課題発見能力の測定を行う。 (3-3) 博士論文発表会および博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	保健学研究科博士後期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 保健、医療、看護、福祉領域の高度専門職業人に相応しい倫理観を有し、最新専門知識や高度技術を修得するとともに、学際的な識見を深めて、その実践力や指導力をさらにレベルアップしたいという意欲を持っている人 (1-2) 保健・医療・看護・福祉行政における問題・課題発見能力と解決能力を高め、その成果を保健・医療・福祉行政に反映させたいという熱意を持っている行政職の人 (1-3) 保健、医療、看護、福祉領域の教育・研究者としての学問的基盤を確立し、グローバルに活躍したいという意欲を持っている人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー) 及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 保健、医療、看護、福祉とその関連領域の修士課程修了者としての、高度かつ専門的な知識や技術を有している。(専門的知識・専門的技能) (2-2) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の英文学術論文を読みこなせる英語力を有する。(専門的知識・専門的技能・国際性) (2-3) 専攻する保健、医療、看護、福祉の専門分野の課題解決のための研究遂行能力、論文執筆力や論文発表におけるプレゼンテーション力を有する。(研究遂行能力) (2-4) 主体性と協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。(コミュニケーション能力) (2-5) 研究倫理を熟知し、重要性を十分認識している。(倫理観) (2-6) 安易に妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。(研究遂行能力) (3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 ・志願する専門分野に関する専門問題、英語問題、面接から求める学生像、資質および学修成果を評価する。 (3-2) 社会人特別選抜 ・志願する専門分野の課題に対する小論文、英語問題、面接から、求める社会人学生像、資質および学修成果を評価する。

杏林大学 大学院 国際協力研究科（博士前期課程）ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。	世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科博士前期課程では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められた学生に、修士（開発学/国際医療協力/学術）の学位を授与する。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 ・国際性を持って国際協力の実践に必要な論理を展開できる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 ・国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的・政策的に分析して問題を処理することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 ・国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能（他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力等）を駆使することができる。 (4) 研究遂行能力 ・問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科博士前期課程では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、国際開発、国際医療協力、グローバル・コミュニケーションの3専攻を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づきコースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。専門知識や技術、実践能力の効果的な修得できるよう講義・演習・実験・実習などを適切に組み合わせた授業を行う。問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻や専門分野を超えた履修を可能とする。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培い、社会の高度な要請に応えるために 研究活動に必要な諸技能を養い、国際協力に必要な世界諸地域の広く、高度な知識を修得し、国際社会の問題について理解を深めるための科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的に分析し問題を処理する能力を培うために 開発に関する学生のキャリアを生かして、課題の理論的・実証的分析技能と問題の処理能力を高めるための科目を配置する。また、学生の力量を学問的に発揮させるため、国際開発及び地域協力の施策を究明する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために 世界諸地域の社会の発展に資するため、国際協力の促進に寄与する高度専門職業人に必要な諸技能及び知見を修得するための科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践により社会への貢献、知的財産の還元への遂行能力を培うために 自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を生かす能力を身につけるために、コースワークを踏まえたリサーチワークの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会において多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 論文公開発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	国際協力研究科博士前期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際協力に対する高い関心 国際社会において発生する様々な課題に関心を持ち、課題解決に向けて多面的、学際的に取り組む意志を持った人 (1-2) 研究、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的・政策的に分析して解明する能力・技術を習得し、研究成果を実践活動に生かして国際協力に関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 国際協力の実践に必要な論理を修得する知識と能力を有している（知識）。 (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得する意欲と能力を備えている（態度・思考力・判断力）。 (2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている（態度・技能）。 (2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と能力を備えている（研究遂行能力）。 (3) 入学者選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験、専門科目、小論文、面接（口述試験）等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験、専門科目、小論文、面接（口述試験）等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文および面接（口述試験）、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4) 国際協力特別選抜 面接および青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 国際協力研究科（博士後期課程）開発問題専攻 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。 開発問題専攻は、国際協力の実践場面で、あるいはその研究分野で、各専門領域の知識と技能を修めた高度な専門家として活躍できる、有用な人材の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科開発問題専攻の教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士（学術）の学位を授与する。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 ・国際的な開発問題の実践に必要な論理を展開し、社会の高度な要請に応えることができる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 ・国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的に分析して問題を処理し、将来動向の予測及び的確な対応策を立案することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 ・世界諸地域の発展に資するための国際開発および地域協力の施策について理解を深め、国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能（他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力を含む）を駆使し、社会的・経済的な価値を創造することができる。 (4) 研究遂行能力 ・問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践により社会への貢献、知的財産の還元を行うことができる。	国際協力研究科開発問題専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、博士前期課程の教育内容を踏襲しつつ、研究指導分野を「政治経済・法制」「地域研究・開発協力」の2つの専門分野に統合再編し、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培い、社会の高度な要請に応えるために 世界諸地域の国際政治経済についての高度な知識を広め、理解を深めるために「<u>国際法論</u>」、「<u>国際経済論</u>」「<u>国際政治論</u>」などの実践的科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的に分析し問題を処理する能力を培うために 開発に関するキャリアを生かし、その力量を学問的に発揮させ、国際開発及び地域協力における課題を解決する能力を修得するために「<u>コミュニケーション論</u>」、「<u>比較社会文化論</u>」、「<u>日本言語文化論</u>」などの科目を配置する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために 世界諸地域の発展に資するための国際開発および地域協力の施策を究明しつつ、国際協力促進に寄与する高度専門職業人に必要な諸技能を習得し、知見を得るために「<u>応用言語学</u>」、「<u>国際保健医療学特論</u>」、「<u>言語教育論</u>」などの実践的な科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践により社会への貢献、知的財産の還元への遂行能力を培うために 幅広く情報を求め、それらを正しく評価して整理、統合し、科学的、論理的、客観的に組み上げる能力を修得し、国際協力を科学の視点から検証・評価し、体系化してゆく研究者となるために、「<u>国際経営学</u>」、「<u>日本経済論</u>」、「<u>比較法制論</u>」、「<u>医療経済学</u>」、「<u>国際言語コミュニケーション</u>（英語分野・中国語通訳分野）」、「<u>国際協力論</u>」等の分野について研究指導科目「演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 社会のニーズに即した実践的な研究・調査活動のために 学生が主体的にキャンパス外において、必要な研究・調査活動を行うための海外・企業等実習を積極的に導入する。 (2-2) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-3) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-4) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかな研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会や中間発表会において多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 論文公開発表会、中間発表会および博士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	国際協力研究科開発問題専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際社会に対する高い関心 国際社会において発生する様々な課題を、多くの側面から学際的に取り組む意志を持った人 (1-2) 実際の諸問題解決への意欲 開発協力にともなう諸問題に関して、言語や文化、社会に生起する具体的、実際の諸問題について究明する意欲を持つ人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (1-4) 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 高度な専門的知見を備え、独創的構想を提起できる。（専門的知識） (2-2) 入学後の修学に必要な基礎学力としての高度な外国語能力を身につけている。（専門的技能） (2-3) 開発にともなう生じる社会構造および社会組織のさまざまな変容について、その要因、過程、結果を地域社会固有の言語、生活様式、文化などの諸側面からとらえることができる。（問題解決能力） (2-4) 研究計画を立案・遂行し、論文を作成する基礎的能力を養うことができる。（研究遂行能力） (3) 入学選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験（英語）、小論文、口述試験、研究計画書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験（英語）、小論文、口述試験、研究計画書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文および口述試験、実務経験報告書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 保健学部 臨床検査技術学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 臨床検査技術学科は、保健及び医療に携わる者として高い倫理観と、強い使命感を持ち、臨床検査に対する卓越した専門知識と技術、総合的な判断力を持つ人材を養成することを目的とする。	保健学部は、高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部臨床検査技術学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に学士(保健衛生学)の学位を授与する。 (1)臨床検査に求められる基本的かつ実践的能力 臨床検査で求められる基本的知識および技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。 (2)問題解決能力 自ら発見した問題や課題について、科学的視点から客観的に考察を加え、論理的に説明ができる。 (3)コミュニケーション能力を生かしチーム医療へ貢献する能力 専門医療職の立場ばかりでなく患者の立場に立ち、他者を思いやり、自らの考えを表現できる。 (4)高い倫理観と地域との関わり 高い倫理観を持ち、医療専門技術職に求められる能力を身につけ、広く地域社会の発展に積極的に寄与することができる。 (5)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力 幅広い教養と医療知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる。	保健学部臨床検査技術学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、4年間の学習分野を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に分け、それぞれを構成する科目を学年進捗と共に理解の深まるよう体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。学年進捗に伴うカリキュラム体系の理解を深めるために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、段階的科目理解度を高めるための模範的履修およびカリキュラム構造を示す「履修モデル」を明示する。さらに、各系統(科目群)別に段階的科目理解度を高めるための「学習目標」と「学年進捗と履修科目との関係」を示す「履修系統図」を明示する。また、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高校から大学への円滑な導入を図るために 幅広い分野にわたって教養を養うために社会科学系、自然科学系、言語系、学科基礎系分野の科目を配置する。一方、臨床検査技師としての役割、やりがい、面白さへの理解を促し学業への意欲を高めるために、また、これから学ぶ種々科目の基本的事項の理解ならびに病院見学による職業イメージの定着など4年間の学びの動機付けを行うために1年時に「臨床検査基礎実習」を配置する。 (1-2)臨床検査に求められる基本的かつ実践的能力を修得するために 臨床検査分野では専門領域として大きく生体検査と検体検査とに分けられ、それぞれの分野に関する専門知識と技術を修得し、検査値と病態との関係を理解することおよび総合的な解釈・判断能力を身につけるために専門分野の講義と実習科目を配置する。さらに、検査の実践を学ぶとともに、医療機関における臨床検査技師の役割や患者対応、チーム医療への参画など医療人に求められる態度・技術・知識を修得するために臨地実習を配置する。また、細胞検査士、第一種衛生管理者、食品衛生監視員等の資格取得をするために必要な科目を配置する。 (1-3)問題解決能力を修得するために 検査技術や病態解析に対し、解決すべき問題に自ら気づき学んできた内容を生かして、自ら進んで種々の問題に高い意欲を持って取り組み問題を解決する能力を修得するために「アドバンスドクラス」、「総合医療演習」や「卒業研究」を配置する。 (1-4)コミュニケーション能力を生かしチーム医療へ貢献する能力を修得するために コミュニケーション能力を修得するために「臨床検査基礎実習」、「総合医療演習」や「卒業研究」を配置する。また、臨床におけるチーム医療の重要性を理解し、コミュニケーション能力を修得するために「臨地実習」を配置する。さらに、チーム医療の理解を促進し、キャリア教育のために「職業適性論」を配置する。 (1-5)高い倫理観を修得し、地域社会との関わりを深めるために 幅広い分野にわたって教養を養い、生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を修得するために教養基礎科目を配置する。地域における医学および保健衛生領域に関し臨床検査技師が医療人として果たす役割の理解を促すために「医療学概論」や「臨床検査概論」、「地域と大学」を配置する。 (1-6)国際的視野を持って適応できる知識や技術の活用能力を修得するために 科学的思考の基盤を培い、倫理、文化、経済、地域と大学等、多角的な視点から考えることができるために人文・社会科学科目ならびに「地域と大学」を配置する。幅広いコミュニケーション能力を修得し、グローバル化に対応できるように特に「医療英語」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)臨床検査に求められる基本的かつ実践的能力を修得するために 演習および実験でグループディスカッションを通じて複合的なものの見方、考え方を養う。 (2-2)問題解決能力を修得するために 臨床検査学系総合分野の「アドバンスドクラス」、「総合医療演習」や「卒業研究」において、少人数のグループワーク・発表などを行い、問題解決能力を修得する。 (2-3)コミュニケーション能力を生かしチーム医療へ貢献する能力を修得するために 「臨地実習」を通じて、臨床現場で求められるチーム医療に必要な態度・技術・知識などを修得する。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な評価指標であるGrade Point Average (GPA)でも評価する。 (3-2)卒業論文作成：発見した問題や課題についての解決能力、科学的視点を持った考察能力、論理的説明能力等を評価する。さらには卒業研究成果の発表を行い、発表を複数の教員で査定し、4年間の学習の成果を把握する。 (3-3)外部機関が実施する国家試験模擬試験：外部機関が作成した全国模擬試験を活用し、全国水準の測定を行う。 (3-4)大学IRコンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部臨床検査技術学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成にむけて真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)科学的視点を持ち合わせており、様々な現象について関心、興味が持てる人 (1-2)臨床検査により得られた情報を総合的に理解し、診断や疾患の理解につなげようとする態度や努力を示す人 (1-3)医療に携わる者としての倫理観を持ち、臨床検査に携わる者としての使命を十分理解でき、さらに他の医療職と連携が取れるコミュニケーション能力を持つ人 (1-4)医療の高度化にともなう知識の膨大化においても、その知識の吸収に積極的な熱意を示す人 (1-5)疑問点などをそのまま放置せず、解決に向けた努力を怠らない人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人材を求める。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や表現力を有している。(知識・理解・表現力) ・高等学校で履修する数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・日本語による文書作成、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を十分身につけている。 (2-2)学んできた内容を生かし、問題を解決するのに必要な知識や技能を駆使して、自ら進んで種々の問題に取り組む態度を有している。(知識・思考力・判断力・意欲) (2-3)積極的に人と関わりを持ち、対話などを通じて相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (2-4)医療に関わる諸問題に深い関心を持ち、医療に積極的に貢献する意欲がある。(意欲・関心) (2-5)得られた情報や成果を適切にまとめ、科学的視点にたった考察を加え、的確に伝えることができる。(技能・表現力) (3)入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入学試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)県国子女入試 適性検査、面接および成績評価証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6)外国人留学生入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。

杏林大学 保健学部 健康福祉学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 健康福祉学科は、保健、医療、福祉、養護及び保育の専門知識と技術を持ち、高い倫理観と情熱をもって人の健康と生活の支援を実践する人材を養成することを目的とする。	保健学部教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部健康福祉学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（保健衛生学）の学位を授与する。 (1) 確かな知識と技術を研鑽する生涯学習力 健康と福祉の専門家として生涯にわたり専門的知識と技術を研鑽し、自律して学習できる。 (2) コミュニケーション能力 発育発達やライフステージに対応した適切な人間理解とコミュニケーションスキルを身につけ、健康と福祉の専門職として良好な対人関係を築くことができる。 (3) 問題解決能力 地域社会や学校における健康と福祉の課題について関心を持ち問題を発見し、解決に必要な情報を統合し、問題解決できる。 (4) 高い倫理観と地域との関わり 国際的視野を持ち多様性を理解し健康と福祉の専門職として高い倫理観を持って地域社会に貢献できる。	保健学部健康福祉学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、人間科学系、自然科学系、語学系からなる基礎分野、および基礎医学系からなる専門基礎分野、保健学系、社会福祉系、学校保健系、環境食品系などからなる専門分野の 3 つの科目区分に授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目のナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学への円滑な移行を図るために 学士課程へのスムーズな移行を図り、1 年次の早い時期に健康・福祉の専門職の役割について理解を促し、学業への意欲を高めるために、「健康福祉学」において学科教員全員が関わる初年次教育を実施する。 (1-2) 幅広い教養と高い倫理観を修得するために 幅広い教養を身につけるとともに生命の尊厳と人権の尊重を基盤とする医療職者としての倫理観を修得するために、「哲学」「芸術」「生命倫理学」「基礎生物学」「自然科学実験」などの多様な科目を配置する。 (1-3) 国際的視野でのコミュニケーション能力を開発するために グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、「英会話」「医学英語」などの語学系科目を配置し国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。 (1-4) 地域社会へ貢献する能力を習得するために 地域社会へ貢献し、複雑化した現代社会の健康像を的確に把握し対応する能力を習得するために「地域と大学」「フィールドスタディ」「ボランティア活動」の科目を配置する。 (1-5) 健康福祉分野のキャリアデザインを指向するために 医療および健康と福祉領域を中心に据えたキャリアデザインを指向するために「職業適性論」や「ボランティア活動」などの科目を配置する。 (1-6) 健康と福祉の専門家としての基礎を修得するために 健康を生物医学的な領域からミクロな理解を深めるとともに公衆衛生学領域からマクロな課題にも対応する健康と福祉の専門家としての基礎を修得するために「解剖学」「生理学」「生化学」「病理学」「公衆衛生学」「医学基礎実習」などの科目を配置する。 (1-7) 健康と福祉の専門家としての実践力を修得するために 健康福祉分野の学校保健領域と社会福祉領域において多角的な視野を持ち、高い倫理観と情熱を持って活躍できる専門的な実践力を修得するために、「健康福祉学実習」「小児保健学」「社会福祉学」「健康教育学」「カウンセリング」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 主体的な問題解決能力を修得するために チーム医療へ貢献する人材としてのコミュニケーション能力や自己表現力、主体的な問題解決能力を修得するために、能動的学修（アクティブラーニング）を積極的に多くの授業に導入する。 (2-2) 早期のキャリアデザインを指向するために 学校ボランティアやその他のボランティア活動を推奨し、健康と福祉の現場への早期体験を促進する。 (2-3) 健康と福祉の現代的課題を学ぶために 健康と福祉の現代的課題を学ぶために、「社会福祉援助技術実習」や「養護実習」「看護学実習」「フィールドスタディ」などの専門分野の科目においてソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。 (2-4) 生涯学習力を修得するために 自ら意欲と問題意識を持って自分で計画を立てて取り組むような、課題学習を積極的に導入する。「フィールドスタディ」に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期において、各科目の成績評価を国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 入学時より「望ましい行動特性と知識」に関するガイドや「教職履修カルテ」を作成し、社会福祉士および養護教諭等のコアコンピテンシーを明示し、PDCA 表による学修のチェックを実施し、学生の自己評価と課題達成度を把握する。 (3-3) 3 年次より専門課程に關して、定期試験とは別に社会福祉士国家試験および都道府県教員採用試験の外部委託等の模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-4) フィールドスタディに関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。発表を複数の教員で査定し、4 年間の学習の成果を把握する。 (3-5) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部健康福祉学科では、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 健康な社会生活を科学的に探求し、健康と福祉の向上に貢献しようとする人 (1-2) 発育発達やライフステージ、地域社会の多様性に興味・関心を持ち課題を発見しようとする意欲を持つ人 (1-3) 幼児から高齢者まであらゆる世代の人々と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4) 健康と福祉、医療について主体的に学習しようとする意欲のある人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）および「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技術や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・高等学校で履修する国語・社会・数学・理科（特に生物・化学・物理）・外国語などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。（思考力・判断力） (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力） (2-4) 教育・人間・自然・文化などに関わる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲） (2-5) 積極的に他者と関わり多様な人々との対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接および適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入学試験（英語（必須）・国語・数学・物理・化学・生物から 2 科目選択）の成績を中心に調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入学センター入学試験（英語（必須）・国語・数学・物理・化学・生物から 2 科目選択）の成績を中心に調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接、適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 面接、適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する。

杏林大学 保健学部 看護学科 看護学専攻 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 看護学科看護学専攻は、看護を必要とする様々な人々に対して対処できるよう、的確な問題解決能力と技術をもち、人への思いやりを有し、高い倫理観を持ち、かつリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とする。	高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部看護学科看護学専攻では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士(看護学)の学位を授与する。 (1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした看護を常に自問しながら看護実践を提供できる。 (2)確かな専門知識と実践能力 あらゆる健康レベルの人々の健康ニーズに応えるために、対象である個人・家族・集団・地域の特性を考えながら看護を提供できる。 (3)チーム医療に貢献するコミュニケーション能力 チーム医療において、他の専門職種や機関、および地域住民との連携を図り、看護が担う役割を考えながら行動することができる。 (4)国際的視野を持って活躍できる資質 幅広い視野で看護をとらえ、国内外の看護事情に関心を持ち、看護専門職としての役割を考えながら行動することができる。 (5)高い専門性と研究的な視点に基づく問題解決能力 自らの専門領域の問題に対して常に専門職者としての研究的態度を考えながら取り組むことができる。 ＜看護師課程＞特別な状況下にある対象に対して、あるいはチーム医療の一員としての看護の役割を考えながら看護を展開できる。 ＜保健師課程＞地域の健康問題を把握し、社会資源を活用し住民との連携を考えながら公衆衛生看護活動を展開できる。 ＜助産師課程＞助産学の基本概念や助産師の役割・機能を考えながら、助産過程を展開し行動することができる。	保健学部看護学科看護学専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの習得のために、一般教養科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目区分からなる授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することでカリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP 制)。 教育内容・教育方法については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高校から大学への円滑な移行を図るために 学士課程へのスムーズな移行をはかり、看護に対する興味・関心を高めるために、初年次に「看護学概論」を配置し、病院見学を実施する。更に初年度に病院における看護の役割や機能が実際に展開される臨床現場を体験し専門科目への学習の動機付けを高めるよう「基礎看護学実習Ⅰ」を配置する。 (1-2)人間に対する理解を深め、高い倫理観を修得するために 看護の対象者である人間を総合的に理解し、自由と権利を尊重した看護行為ができる基盤として幅広い教養を身につけるために、「発達心理学」「生命倫理学」など人間科学系科目、「生命科学概論」など自然科学系科目を配置する。また、看護の基本的な姿勢を学ぶために、基礎看護学分野の「看護学概論」「看護援助論」を配置する。 (1-3)確かな専門知識と実践能力を修得するために 看護を展開する上での核となる部分を修得するために、専門基礎分野の「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」、専門看護学の成人看護学系・高齢者看護学系・小児看護学系・母性看護学系・精神看護学系・在宅看護学系・公衆衛生看護学系の各系統の講義・演習・実習を配置する。 (1-4)チーム医療に貢献するコミュニケーション能力を修得するために チーム医療において必要な制度等を学ぶために、専門基礎分野の「健康支援と社会保障制度」、専門看護学の成人看護学系・高齢者看護学系・小児看護学系・母性看護学系・精神看護学系・在宅看護学系・公衆衛生看護学系の各系統の講義・演習・実習を配置する。地域住民との連携を学ぶために、基礎分野の「地域と大学」を配置する。 (1-5)国際的視野を持って活躍できる資質を身につけるために 国際社会に貢献できる能力を養うために、基礎分野の語学系科目を配置する。また、幅広い視野で看護をとらえるため、更に将来のキャリア設計に資するために、看護学を専攻する学生に対しては「応用看護学」、保健師課程を専攻する学生に対しては公衆衛生看護学系の「公衆衛生看護活動論Ⅱ」、助産師課程を専攻する学生に対しては助産学系の「助産学概論」「地域助産活動論」を配置する。 (1-6)高い専門性と研究的な視点に基づく問題解決能力を修得するために 専門基礎分野の「疫学と統計」、応用看護学系の「看護研究」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)問題解決能力を高めるために 看護学科のカリキュラム全体に能動的学修(アクティブラーニング)を取り入れる。特に、専門看護学分野および応用看護学、公衆衛生看護学系・助産学系においては、積極的に能動的学修を取り入れて実施する。 (2-2)看護実践に必要な基礎的能力および高い倫理観を養うために 講義や演習、自己学習等を通して学んできた知識や技術を統合・深化し、看護実践に必要な基礎的能力を養うとともに、看護専門職としての責務や倫理観について学びを深めるために、実習を多く取り入れる。 (2-3)チームで働く力とコミュニケーション能力を修得するために 専門職としての発信力やリーダーシップ、メンバーシップ、職種間連携の能力を醸成するために、各領域において、段階的に、少人数のグループワークやグループディスカッション、ケーススタディ、小グループを基本としたチーム基盤型学習(TBL)を実施する。 (2-4)国際的な視野を広げるために グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学プログラムを導入する。 (2-5)生涯学習力・情報発信力を修得するために 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。応用看護学も自分の関心のあるテーマをゼミで深めて実習につなげ、卒業後の進路選択の一助とする。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA(Grade Point Average) で評価する。 (3-2)知識に関しては、卒業前に、「卒業時の到達目標」の内容を網羅した統合的な知識を問うための認定試験を実施する。 (3-3)実践能力に関しては、演習において技術評価基準に基づいて評価を行う。また、臨地実習においても評価基準に沿って評価を実施する。 (3-4)卒業研究において、所属するゼミでの評価や、「看護研究」発表を基準に沿って評価することで、研究的態度や専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を測定する。 (3-5)3年次より専門課程に関して、全国模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-6)大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部看護学科看護学専攻は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした看護を行う意欲を持つ人 (1-2)あらゆる健康レベルの人々の健康ニーズに応えるために、対象である個人・家族・集団・地域の特性に応じた看護を提供する意欲を持つ人 (1-3)チーム医療において、他の専門職種や機関、および地域住民との連携を図り、看護が担う役割を果たす意欲を持つ人 (1-4)幅広い視野で看護をとらえ、国際社会に貢献したいという意欲を持つ人 (1-5)専門職者として必要な研究的態度を身につけ、自らの専門領域を発展させようという意欲を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・高等学校で履修する国語、数学、物理、化学、生物、英語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な英語力及び日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、(財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2)知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-4)教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5)積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3)入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 適性検査、面接および成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6)外国人留学生入試 適性検査および面接から学習成果を総合して評価する。

杏林大学 保健学部 看護学科 看護養護教育学専攻 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることがサポートできる人材を育成することを目的とする。 看護養護教育学専攻は、健康増進の実現に寄与しうる創造力と実践力を有し、特に国の将来を担う子どもたちの成長過程において、指導力を発揮できる人材を養成することを目的とする。	保健学部の教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。 (1) 共感的態度とコミュニケーション能力 - 豊かな人間性を養い、多角的な視野と幅広い教養を身につけ、社会で活躍することができる。 - 人々の尊厳と権利を擁護し、看護及び養護における援助的な関係形成の重要性を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。 (2) 科学的根拠に基づく看護実践能力 - 科学的・批判的思考に基づき、自ら問題を発見し、課題を解決できる。 - 専門的な知識と技術及び態度を身につけ、対象の個性に応じた看護を実践できる。 (3) 学校における養護実践能力 - 子供の健康に関するニーズをとらえ、学校内外の関係者と連携・協働して子供の健康の保持増進のための調整および動員することができる (4) チームで働く力 - 専門職としての役割と責任を自覚し、互いに尊重し合い、多職種と連携・協働することができる。 (5) 自ら学び続ける力 - 看護・養護職の専門性を継続して発展させるために必要な批判的・論理的思考を身につけるとともに、キャリアデザインを描くことができる。 (6) グローバル社会で活躍する能力 - 地域社会の中で自分の能力を積極的に役立てることができる。 - グローバル社会での多様性と異文化理解に立脚した看護・養護を提供できる。	保健学部看護学科看護養護教育学専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、基礎分野、専門基礎分野、基礎看護学分野、専門看護学分野、統合分野、教職に関する科目からなる授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習、臨床実習を適切に組み合わせた授業を実施する。特に分野は、看護および養護実践に必要な科目を体系的に修得できるよう授業を実施する。また、カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号をふる科目ナンバリングを行い、またカリキュラムマップや履修モデルを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP 制)。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学への円滑な移行を図るために ・学士課程へのスムーズな移行を図るため「基礎生物」「基礎化学」「基礎物理学」「基礎数学」等の自然科学系の科目を充実し、看護カリキュラムと自然科学の概念を統合することにより健康や疾患過程を理解する基礎として教養教育を充実させる。 (1-2) すべての人々を対象としたケアの基本を学ぶために ・豊かな人間性を養い、多角的な視野と幅広い教養を身につけるために「芸術」「ホスピタリティ論」などの人文科学系科目を配置する。 ・人々の尊厳と権利を擁護する能力、看護及び養護における援助的な関係形成の重要性を理解し、良好なコミュニケーションがとれる能力を育むために基礎分野「生命倫理学」「日本語表現法」、基礎専門分野「学校保健学概論」等の科目を配置する。 (1-3) 科学的根拠に基づく看護実践能力を修得するために ・あらゆる年齢層、個人の健康レベル、個人および集団と家族の生活と健康課題等に応じたアセスメントをする能力と看護援助技術のスキル、健康課題に対応する能力を身につけるために、専門基礎分野、基礎看護学分野、専門看護学分野の科目を段階的に配置する。 ・安全で質の高い看護を提供する上で、情報を収集し管理する知識と技術を身につけるために、基礎分野の「情報処理論」、専門基礎分野の「保健統計」「疫学」などの科目を配置する。 (1-4) 学校における子供の発達と健康を支援する養護実践の能力を修得するために ・個々の児童生徒及び集団の健康の保持増進を図る能力を養い、組織的活動及び地域・家庭と連携・協働しヘルスプロモーションを実践する能力を養うために、基礎分野「健康教育学概論」と統合分野「小児保健学」「養護実践学Ⅰ」「養護実践学Ⅱ」の科目を配置する。 (1-5) 保健・医療・福祉・教育チームにおける看護・養護の役割・機能を身につけるために ・現代的な健康課題の解決と対象としたケアの実践を目指し、保健・医療・福祉・教育チームにおける看護・養護の役割を理解し、多職種と連携・協働する力を身につけるために、基礎および専門看護学分野の科目および「発達障害と特別支援」「統合看護学実習(発達障害)」「看護トピックス」等の統合分野の科目を配置する。 (1-6) 専門職者として看護・養護教育を探究し続ける能力を修得するために ・批判的・論理的思考を身につけるとともに、将来設計に資するようなキャリアデザインを描くことができ、継続して看護・養護職の専門性を発展させる能力を育む科目として、「領域別ゼミナール(看護系)」「領域別ゼミナール(養護系)」、ゼミ方式による「看護研究」を配置する。 (1-7) グローバル社会で活躍する能力を修得するために ・地域社会の持続的な発展を目指し、社会の中で自分の能力を積極的に役立てる能力を修得するために「地域と大学」や統合分野の「公衆衛生看護学概論」「健康相談活動」「ボランティア活動」などの科目を配置する。 ・グローバル社会における責任ある市民の形成と多様性に配慮した文化的に適切なケアを提供する能力を身につけるために「医療看護英文読解」「国際看護学実習基礎分野」「国際看護学実習応用分野」の科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 科学的根拠に基づく看護実践能力を修得するために ・安全な環境で、実践に必要な知識と実践の技能を効果的に学ぶために、演習やシミュレーション教育を実施する。 ・これまで学んだ知識と技術を科学的思考に基づき統合し、臨地での実践を通して看護の方法を修得し、対象者との個別的な援助関係を築くために、臨地実習プログラムを実施する。 (2-2) 養護実践力および子どもに強い看護実践能力を修得するために ・現代的な課題である発達障害に対応するための講義、実習プログラム、ボランティアによるサービスマーケティング、スクールインターンシップを積極的に導入する。 (2-3) チームで働くコミュニケーション能力を修得するために ・専門職としての発信力やリーダーシップ、メンバーシップ、職種間連携の能力を醸成するために、各領域において、段階的に、少数のグループワークやグループディスカッション、ケーススタディ、小グループを基本とした問題解決型学習(PBL)を実施する。 (2-4) グローバル社会で活躍できる能力を高めるために ・社会の中の看護・養護職の役割を理解し、社会の中で課題を解決する方法を考えることをねらいとして、地域、病院、学校における主体的なボランティア活動、インターンシップ、フィールドワークなどを実施する。 ・看護・養護実践に生かせる英語の運用能力を高めるために、海外文献講読、海外研修を積極的に導入する。 (2-5) 自ら学び続ける力を高めるために ・自ら意欲と問題意識を持って自分で計画を立てて取り組むような、ゼミナール、課題学習、看護研究を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 講義と演習を統合させた臨地実習の達成度を評価するために、プレゼンテーション、リフレクションシート、ルーブリックを用いて学習成果を測定する。 (3-3) 学生自身の自己評価と教員のフィードバックを段階毎に記載する自己評価カルテを用いて、養護実践能力の形成過程と到達度を評価する。 (3-4) 1 年次より専門課程に関して、定期試験とは別に外部委託の全国模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-5) 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には「看護研究」成果の発表を行う。発表を複数の教員で査定し、4 年間の学習の成果を把握する。 (3-6) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部看護学科看護養護教育学専攻では、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 人に関心を持ち、尊重できる人 (1-2) 自ら課題を見つけて、誠実に向き合い取り組める人 (1-3) 人々の健康と支援に関心があり、看護・養護の実践を通して、社会に貢献する熱意のある人 (1-4) 科学的探究心を持って、自発的に学習に取り組む意欲のある人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラムポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・高等学校で履修する国語、英語、数学、自然科学系(生物、化学、物理)などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・社会生活に必要な基礎的・実践的知識・技術・態度を習得している。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(読解力・表現力) ・文章読解力、課題に応じた内容をまとめて発表する力など日本語の表現力を身につけている。 (2-4) 人間の生活と健康に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5) 日常生活において望ましい習慣や態度を有し、積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協調性) (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。	

杏林大学 保健学部 臨床工学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 臨床工学科は、生命維持管理装置の操作運用に関する医用生体工学の分野で、その専門的知識と技術を活かし、高い倫理観と使命感を持った実践的な臨床工学技士を養成することを目的とする。	保健学部教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部臨床工学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（臨床工学）の学位を授与する。 (1) 高い倫理観 他者の尊重と自己を律する能力を持ち、臨床工学技士として各種施設や地域に寄与することができる。 (2) 幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力 ・他の医療職種の立場や意見を理解した上で、協力するとともに自らの考えを表現することができる。 ・必要に応じて医療機器の原理や操作・安全管理の手法を様々な関連医療職種に対して指導できる。 (3) 確かな専門知識と実務能力 確かな専門知識と技術を統合し、実践的な実務能力を持って問題を解決することができる。 (4) 問題解決能力 自ら問題に気付き、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決することができる。 (5) 創造性と学習意欲を涵養する能力 医学・医療の急速な進歩に追従し、豊かな創造性と学習意欲を持って、将来の臨床工学領域の創造に寄与することができる。 (6) 国際的視野を持って活動できる力 多様な価値観や異文化を理解し、国際社会における日本の臨床工学技士の役割を考え活動できる。	保健学部臨床工学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、人文・社会学系、数学系、物理学系、化学系、生物学系、言語系、基礎医学系、医学検査系、臨床工学系、衛生学系、総合の科目区分からなる授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習、臨床実習を適切に組み合わせた授業を実施する。また、カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号をふる科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップや履修モデルを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学への円滑な移行を図るために 初年次教育－基礎物理学、基礎化学、基礎数学、基礎生物学および初年度教育の一環として大学における専門教育に必要な基礎的な学習内容の確認と知識の整理を行い、正しく学習できる基礎能力を養成する。 (1-2) 高い倫理観を修得するために 多面的に広い視野から物事を考えられ、深い一般教養を備えられるよう一般教養科目、「地域と大学」など科目を配置する。さらに科学的思考の基盤を培い、人間としての尊厳を倫理面、および経済・文化等多角的な視点から考えることができるようになる。「医用工学概論」、機器概論および各専門分野の科目を通じて、臨床工学技士が職業人としてどのように行動すべきかについて理解を促す。さらに臨床実習系科目のガイダンスや報告会などを通じて臨床工学技士の行動規範の理解を促す。 (1-3) 豊かな創造性を身につけるために 自ら柔軟に意欲的に考え行動する能力を修得するために、基礎分野および専門各分野の実習、特別講義Ⅰ、Ⅱ、「卒業研究」などを配置する。自然科学に関する基礎的な内容を理解し、基礎医学系や医用物理学系の体系化された学問に幅広く触れ、さらに専攻分野を越えて、共通に必要な複合的視点から事物を理解できる能力を身につける。 (1-4) 確かな専門知識と実務能力を修得するために 医用電気電子工学系、医用機器学系、診断機器学系、治療機器学系、医用安全管理学系など、臨床工学技士として必須の各分野に講義と実習・演習科目を配置する。 (1-5) 幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を修得するために 主要科目に配置された実習では学生同士のコミュニケーションとディスカッションが必要であり、知識の取得に加え幅広い表現力を養う。さらに、病院見学、臨床実習などを通じて臨床工学技士の仕事とチーム医療への貢献について実践的に学ぶ。また、チーム医療の理解促進やキャリア教育のために「職業適性論」を配置する。 (1-6) 問題解決能力を修得するために 臨床工学技士として、医療安全に直結する様々な解決すべき問題に自ら気付き、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をするために「特別講義」「卒業研究」を配置する。また、臨床における問題解決能力を修得するために、「臨床実習講義」「臨床実習」を行う。 (1-7) 国際的視野を持って活動できる資質を身につけるために グローバルな視野を持って国際社会における日本の臨床工学技士の役割を考え活動できる資質を身につけるために「医用機器学概論」、「関係法規」などで、我が国の規格だけでなく海外の医療機器規格、安全規格などと比較検討して学習できる科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 確かな専門知識と実務能力を修得するために 教科書の他、実際の医療機器、模型、図表、動画などを積極的に利用した実践的な教育を行う。 (2-2) 判断力およびコミュニケーション能力を涵養するために 課題に応じたグループでのディスカッションや学習を積極的に導入し、判断力およびコミュニケーション能力を涵養する。 (2-3) 問題解決能力を修得するために 機会あるごとに発表会などを行い、自立的な学習を支援すると共に、課題分析結果の報告や情報提示の能力を涵養し、集団討論などを体験的に学習する。 (2-4) 問題解決能力・コミュニケーション能力を修得するために 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には「卒業研究」成果の発表を行う。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 各学年の期末時点で GPA の確認および未取得科目の調査を行い、以降の学習手段を再設定するとともに、レポートなどによる課題により実習等で習得した知識、技術、作表、作図、データ分析能力を評価する。 (3-3) 外部の共通試験を利用して、知識水準の総括的な判断を行う。利用する試験としては日本生体医工学会主催による第 1 種、第 2 種 ME 技術検定試験および日本臨床工学技士教育施設協議会主催による国家試験出題範囲に準拠した全国統一模擬試験が年 3 回ある。 (3-4) 「卒業研究」において、所属するゼミでの評価や、研究発表を基準に沿って評価することで、研究的態度や専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を測定する。 (3-5) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部臨床工学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 基礎医学、臨床医学および工学的な知識に興味を持ち、これらを生かして社会に貢献する意欲を持つ人 (1-2) 医療専門領域である臨床工学技士としての技能を実践できる仕事に興味を持つ人 (1-3) 様々な医療スタッフと協力して主体的な学習を行うことに興味を持ち、また、習得した専門知識を活用して医療に貢献する意欲のある人 (1-4) 発展する工学技術や医療を基盤とした新しい医療技術に対する興味を持っている人 (1-5) 医療機器に関する研究や教育に興味を持つ人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー) 及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力) ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、物理学、化学、生物学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。(関心・意欲) (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 適性検査および面接から学習成果を総合的に評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合的に評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合的に評価する。 (3-5) 帰国子女入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。

杏林大学 保健学部 救急救命学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることができる人材を育成することを目的とする。 救急救命学科は、迅速かつ的確な情報収集能力、救急傷病者の容態観察技術、観察結果に基づく適切な判断力、応急的処置技術、それぞれの基本を修得し、崇高な倫理観をもって救急医療の最前線で活躍できる人材を養成することを目的とする。	保健学部の教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部救急救命学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（救急救命学）の学位を授与する。 (1)救急救命士として活動するために必要な実務能力の基本 ・救急医療の現場において必要な救急傷病者の容態観察技術、観察結果に基づく適切な判断力、応急的処置技術を修得し、救急医療の最前線で生かすことができる。 (2)救急救命士に必要な医学的知識 ・医学に関する基礎知識、救急医療に関する基礎知識、災害・防災の基礎知識を持ち、それを対象者に活用することができる。 (3)医療人に必要な倫理観と行動規範 ・他者を尊重し、自己を律し、救急・災害医療における傷病者や地域社会のために貢献することができる。 (4)チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力 ・他者（他職種、傷病者など）の立場や意見を理解した上で、自らの考えを表現することができる。 (5)問題解決能力と自ら学び続ける力 ・生涯学習の意義を理解し、自ら進んで勉強する意欲的な態度を身につけ、他者や後進の指導を積極的に行うことができる。 (6)国際的な視野を持つ社会人として活動できる資質 ・多様な価値観や異文化を理解し、基礎的な外国語によるコミュニケーション能力を身につけ、グローバル社会に向けて救急救命士の役割を考え活動することができる。	卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つの区分からなる授業科目を体系的にかつ順次的に編成し、講義・演習・実習などを適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号を振る科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することでカリキュラムの構造を分かりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。教育内容・教育方法・成果の測定については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高校から大学への円滑な移行を図るために ・救急救命士の役割・やりがいへの理解を促し、学業への意欲を高めるために、初年次教育として「救急医学概論」「救急処置総論」「シミュレーション（模擬実習）Ⅰ」を配置する。また、「救急・防災実習」を配置し、授業と臨床の結びつきを学生に理解してもらう。 (1-2)救急救命士として活動するために必要な実務能力の基本を修得するために ・「シミュレーション（模擬実習）Ⅰ～Ⅶ」を配置し、座学で学んだ知識と実践技術を結びつけて理解することを促し、特定行為（気管挿管・除細動・薬剤投与）に関する理論と基本手技、隊員連携活動の基本を修得する。「救急車同乗実習」「病院内実習」を配置し、実践的な傷病者の観察技術や、状況に即した適切な判断力（臨床における問題解決能力）を発揮できる素養を身につける。「体育実技」を配置し、救急救命士として必要な基礎体力づくりに役立てる。 (1-3)救急救命士に必要な医学的知識を修得するために ・専門基礎分野では、適切な救急処置を行うために必要な医学的基礎知識を修得する。「救急処置総論・各論」を配置し、特定行為を中心に、命を救うための専門的な医学知識を修得する。知識の定着のために「実践救急症候学」「特別講義」を配置する。 (1-4)医療人に必要な倫理観と行動規範を修得するために ・「生命倫理学」を配置し、医療を行う上で常に念頭に置くべき倫理上の基本原則を学習する。「臨床実習」を通じて救急救命士の行動規範の理解を促す。地域における保健・医療・福祉職や救急救命士に期待される役割の理解を促すため、「地域と大学」を配置する。 (1-5)チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を修得するために ・学生同士のグループワークを含む「実践的防災論」「シミュレーションⅠ～Ⅶ」を配置する。また臨床におけるコミュニケーション能力を修得するために、「病院実習」「医療コミュニケーション学」を配置する。チーム医療の理解促進やキャリア教育のために「職業適性論」を配置する。 (1-6)問題解決能力と自ら学び続ける力を修得するために ・「医学概論」では地域社会における諸問題を、「特別講義」では災害などに関する時事問題を扱い、学生同士が議論し合い自己の意見をまとめることを学習する。問題に自ら気付き、客観的な分析と意欲を持って問題を解決する経験を積むために「卒業研究」を配置する。応急手当普及員認定証を取得して一般市民への普及・啓発活動を授業の一環として行い、救護班としてボランティア活動を行うなど、社会的視野を広く持ち在学中から地域社会へ貢献することの重要性を学び、指導力を発揮出来る素養を修得する。 (1-7) 国際的な視野を持つ社会人として活動できる資質を修得するために ・基礎分野では、グローバル社会に向けて日本のことを深く学び、人間としての尊厳を倫理面、および経済・文化等多角的な視点から考えられるように促す。「英語Ⅰ・Ⅱ」「英会話」を配置し、日常場面において必要となる基礎的な外国語によるコミュニケーション能力を修得する。保健医療の場でどう使っていくのかを学ぶために「プレホスピタル英会話」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)救急救命士として活動するために必要な実務能力の基本と必要な医学的知識を修得するために ・専門分野の各授業の中で、基礎知識とともに各教員の臨床経験から得た応用的知識も積極的に伝える。また、その知識と実務が結びつくような実習・演習科目の内容とする。 (2-2)医療人に必要な倫理観と行動規範を修得するために ・臨床実習の場を活用し、さらに授業の一環として行うフィールドワーク、ボランティア活動などのソーシャルラーニング（社会学修）を通して、どのような職業倫理を持つべきかについて学生に考えてもらう機会にする。 (2-3)チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を修得するために ・少人数のグループワーク、学生による発表などの能動的学習法を積極的に導入する。臨床実習や施設見学・体験学習などの実践型実習において他職種や救急傷病者と接することで、コミュニケーション能力向上を図る。 (2-4)医療人としての資質を身につけ国際的な視野を持つ社会人として活動できる資質を修得するために ・授業を通して医療や地域社会の問題に自ら気付くことが出来るよう促す。「卒業研究」では、自ら考えた問題を柔軟に解決する機会を導入する。外国語による実践的なコミュニケーション実習を行い、外国人傷病者に対応できる資質を身につける。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2)シミュレーションでは客観的能力評価試験による実技評価を行う。 (3-3)3 学年以降は、科目横断的なテストを定期的に行い、専門知識を評価する。 (3-4)卒業研究では、研究態度や研究発表を基準に沿って評価することで、専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を測定する。 (3-5)4 年次より専門課程に関し、全国模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-6)大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し学士課程の成果を把握する。	保健学部救急救命学科では、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1) 必要な知識、実践的技術・能力の基本を身につけ、救急救命士として救急医療の最前線で活躍したいという意欲がある人 (1-2) 医療人の一員として必要な倫理的な素養を備え、さらに向上させようとする熱意を持つ人 (1-3) 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4) 生命科学、医学に関する修学について強い好奇心、関心を持ち、問題について自発的に探究し、問題解決の能力を主体的に高めようとする意欲を持つ人 (1-5) 現代社会を生きていく人間として必要な国際的、知的な素養を備え、さらに向上させていくとする熱意を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの教科について、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。（思考力・判断力） (2-3) 自分の考えを的確に表現し伝えることができる。（技能・表現力） (2-4) 保健、医学、災害などにかかわる諸問題に広く関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲） (2-5) 積極的に他者と関わり多様な人々との対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3)入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 適性検査、面接、小論文および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入試試験（英語および選択科目）の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験（英語および選択科目）の成績を中心に調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。 (3-6)外国人留学生入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。

杏林大学 保健学部 理学療法学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 理学療法学科は、医療人としての倫理観に裏付けされた豊かな人間性と理学療法に関する高度な知識、技術を備え、障害の機能回復だけでなく、地域医療や福祉の場における健康の維持増進など幅広い領域において貢献できる人材を養成することを目的とする。	保健学部の教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部理学療法学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（理学療法学）の学位を授与している。 (1) 高い倫理観 人間性が豊かで、高い倫理観を持ち、科学的手法を運用できる。 (2) 高度な知識と専門技術 高度で先進的医療技術を理解すると共に、理学療法技術を身につけて実施できる。 (3) コミュニケーション能力 チーム医療の担い手として、多職種との円滑なコミュニケーションができる。 (4) 問題解決能力 知識と技術を融合させ、問題を解決できる。 (5) 国際的視野を持って地域で活動する力 地域社会のみならず、グローバル社会へ貢献できる。	保健学部理学療法学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、基礎分野（人間科学系・自然科学系・語学系）、専門基礎分野（医学系・保健学・衛生学分野）、専門分野（基礎理学療法学系・理学療法評価学系・理学療法治療学系・理学療法地域学・臨床実習系・総合領域）の領域を学年ごとに基礎的な科目から応用的科目へ発展するよう編成して、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。系統的カリキュラムの可視化に関しては、順次性をわかりやすく示すため、科目ナンバリングや履修系統図を作成する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。 教育内容・教育方法・成果の測定については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学へのスムーズな移行を図るために 初年時教育として、高い倫理観と幅広い教養を養うため「哲学」「倫理学」「社会学」「法学」等を配置する。また、高校から専門科目を理解するために必要な「数学」「物理学」「化学」「生物学」等の自然科学を配置する。リハビリテーションの歴史や理念を理解するため「リハビリテーション概論」を配置する。 (1-2) 医学的知識と理学療法の専門知識・技術を修得するために 専門的科目としては、「内科学」「外科学」「整形外科学」などの医学系科目を2年次に配置して、3年次より理学療法専門科目の「理学療法評価学概論」「運動系・内部系・神経系・小児系運動療法学」「義肢装具学」や「理学療法評価学実習」「義肢装具学実習」「ADL（日常生活動作学実習）」を配置する。 (1-3) コミュニケーション能力を修得するために コミュニケーション能力（記述・表現力・議論・語学力）を養うため、初年時教育に「英語（英会話を含む）」、「日本語表現力」「医学英語」を配置して、2年次に「理学療法用語論（英語）」で専門的用語・英語表現ができるように配置する。 (1-4) 問題解決能力を修得するために 「基礎ゼミ」で少人数によるグループワークを行い、学生自らが議論しながら問題解決能力を身につける科目を配置する。 (1-5) 国際的視野を持って地域で活動する力を修得するために 地域社会における役割について「地域理学療法学」を配置する。また、グローバル社会への対応として、身近な視点からグローバルな視点で、リハビリテーションの使命を考える事が出来るように「地域と大学」「理学療法国際事情」を配置する。キャリア教育としては、病院・福祉施設などの見学実習や臨床実習を1年次から4年次まで計画的に配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 問題解決能力を高めるため 他者と議論をする機会が多い少人数制によるゼミナール形式の授業を積極的に導入する。 (2-2) 自己学習能力を高めるために 能動的な学習を促す事前事後の学習課題を管理するため、インターネットを活用したeラーニングシステムを導入する。 (2-3) 確かな技術力の向上のために 高度な専門技術の修得に、学外の病院や施設における臨床実習を導入する。地域とグローバル社会に関しては、ボランティアへの参加、海外留学などの機会を積極的に導入する。 (2-4) 研究能力を高めるため 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表と論文を作成する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 理学療法学科専用ホームページより、専門科目の基礎と応用をeラーニングで、学生自身が学内・学外を問わず、到達度を確認できるシステムを構築する。 (3-3) 3年次より専門課程に関して、定期試験とは別に外部委託の全国模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-4) 客観的に臨床能力を測定するために少人数によるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)を実施する。 (3-5) 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。発表を複数の教員で査定し、4年間の学習の成果を把握する。 (3-6) 大学IRコンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部理学療法学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) モラルと倫理観を持ち、自分の行動規範を持っている人 (1-2) 障害者・児に対する関心と理解がある人 (1-3) 自分の周囲の問題だけでなく、社会的な観点から問題に関して、解決しようと努力する人 (1-4) グローバルに保健・医療・看護・福祉に関する積極的な学習意欲がある人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・高等学校で履修する数学・生物学・物理学・化学などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2) 自ら見つけた問題に対し、積極的・意欲的に関わり、客観的に分析し、自分の持つ知識と技能を用いて、解決しようとした経験を有している。（意欲、問題解決能力） (2-3) 他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とコミュニケーションを取り、共同して学ぶ態度を有している。（思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力） (2-4) 保健・医療・福祉のみならず、教育、文化などに関わる社会の諸問題に関心があり、自らが積極的に関わっていかうとする意欲がある。（関心・意欲） (2-5) グローバルな視野を持ち、国際社会の中で自分にできることを探そうとする意欲がある。（主体性・国際性） (3) 入学者選抜の基本方針 理学療法学科の教育理念・目的に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 適性検査(国語・英語・数学・化学・物理・生物)、調査書、面接で総合評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試(英語必須、国語・数学・化学・物理・生物から2科目選択)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) 大学入試センター試験利用入試 大学入試センター試験入試(英語必須、国語・数学・化学・物理・生物から2科目選択)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 適性試験、調査書、面接で総合的に評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 適性試験、調査書、面接で総合的に評価する。

杏林大学 保健学部 作業療法学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることをサポートできる人材を育成することを目的とする。 作業療法学科は、豊かな人間性と倫理観を備え、心身に障害をもつ人々のQOL(生活の質)の維持・向上を支援するために必要な、科学的根拠に基づいた作業療法に関する幅広い専門知識と技術を身につけた人材を育成することを目的とする。	保健学部教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部作業療法学科では、教育目標を達成するために、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士(作業療法学)の学位を授与する。 (1)高い倫理観 他者を尊重し、自己を律し、作業療法対象者や地域社会のために寄与することができる。 (2)豊かな創造性 柔軟な発想を基にした新たな知識・技術・システムを作り上げることができる。 (3)確かな専門知識と実務能力 作業療法学に関する豊富な専門知識を持ち、それを対象者に活用することができる。 (4)幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力 他者(他職種、作業療法対象者など)の立場や意見を理解した上で、自らの考えを表現することができる。 (5)問題解決能力 自ら問題に気付く、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決することができる。 (6)国際的視野を持って活動できる資質 多様な価値観や異文化を理解し、国際社会における日本の作業療法士の役割を考え活動できる。	保健学部作業療法学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、基礎分野科目、専門基礎分野科目、専門分野科目の3つの科目区分からなる授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義・演習・実習・臨床実習を適切に組み合わせた授業を実施する。特に専門分野科目は、基礎作業療法学系科目・作業療法評価学系科目・作業療法治療学系科目・地域作業療法学系科目・臨床実習系科目・総合領域科目の6つの科目領域に区分し、作業療法学における専門科目が体系的に修得できるよう授業を実施する。また、カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号をふる科目ナンバリングを行い、またカリキュラムマップや履修モデルを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)高校から大学への円滑な移行を図るために 学士課程へのスムーズな移行を図り、1年次の早い時期に作業療法士の役割・やりがい・面白さへの理解を促し、学業への意欲を高めるために、1年次に「作業療法学概論」「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。また、1年次の夏の時期に、「見学実習」を配置することで、授業と作業療法臨床の結びつきを学生に理解してもらい、円滑な大学授業への移行を促す。 (1-2)高い倫理観を修得するために 基礎分野の科目履修を通して幅広い教養を身につけることを促す。「作業療法学概論」や各専門分野の科目の中で、作業療法士は職業人としてどのように行動すべきかについて、理解を促す。地域における保健・医療・福祉職や作業療法士に期待される役割の理解を促すため、「地域と大学」を配置する。臨床実習系科目のオリエンテーションや報告会の中で、作業療法士の行動規範の理解を促すため、「見学実習」「評価実習Ⅰ」「評価実習Ⅱ」「総合臨床実習」を配置する。 (1-3)豊かな創造性を身につけるために 自ら柔軟に意欲的に考え、行動する能力を修得するために、「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」「作業分析学Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ」「卒業研究」などを配置する。 (1-4)確かな専門知識と実務能力を修得するために 作業療法における4つの専門領域(身体障害・老年期障害・発達障害・精神障害)に応じた科目を配置する。座学で学んだ知識と実践技術を結びつけて理解することを促すために、「作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「身体障害作業療法学演習」「発達障害作業療法学演習」「精神障害作業療法学演習」などの実習・演習科目を配置する。 (1-5)幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を修得するために 学生同士のコミュニケーションが必要なグループワークを行う「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」「作業分析学Ⅰ・Ⅱ」「発達障害作業療法学演習」「精神障害作業療法学演習」「基礎ゼミ」「卒業研究」などを配置する。また臨床におけるコミュニケーション能力を修得するために、「見学実習」「評価実習Ⅰ」「評価実習Ⅱ」「総合臨床実習」を配置する。チーム医療の理解促進やキャリア教育のために「職業適性論」を配置する。 (1-6)問題解決能力を修得するために リハビリテーションや作業療法における解決すべき問題に自ら気付く、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をするために「基礎ゼミ」「卒業研究」を配置する。また、臨床における問題解決能力を修得するために、「見学実習」「評価実習Ⅰ」「評価実習Ⅱ」「総合臨床実習」を配置する。 (1-7)国際的視野を持って活動できる資質を身につけるために グローバルな視野を持って国際社会における日本の作業療法士の役割を考え活動できる資質を身につけるために「作業療法国際事情」を配置する。また、海外の大学との提携により短期留学の機会を設定する。 (2)教育方法 (2-1)高い倫理観を修得するために 作業療法士の行動規範の理解を促すために、臨床実習の場を活用する。「地域作業療法学系科目」においても、地域の高齢者や障害者と接する時間を設定し、作業療法士はどのような職業倫理を持つべきかについて学生に考えてもらう機会とする。 (2-2)確かな専門知識と実務能力を修得するために 専門分野の各授業の中で、基礎知識を伝えるとともに、各教員の臨床経験から得た応用的知識も積極的に伝える。また、その知識と実務が結びつくような実習・演習科目の内容とする。 (2-3)コミュニケーション能力を修得するために 専門分野の各授業の中で、小人数のグループワーク、集団討論、学生による発表などの方法を積極的に導入する。臨床実習や「地域作業療法学系科目」において地域の高齢者や障害者と接することで、コミュニケーション能力向上を図る。 (2-4)豊かな創造性と問題解決能力を修得するために 「基礎ゼミ」「卒業研究」や臨床実習において、自ら考えた問題を創造的に、柔軟に解決する機会を積極的に導入する。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2)各年次における臨床実習の評価を用いて、倫理観、実務能力、コミュニケーション能力などを評価する。 (3-3)2年次以降は、科目横断的なテストを定期的に行い、専門知識を評価する。 (3-4)4年次より専門課程に関して、全国模擬試験を実施して、全国水準の測定を行う。 (3-5)卒業研究において、所属するゼミでの評価や、研究発表を基準に沿って評価することで、研究的態度や専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を測定する。 (3-6)大学IRコンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部作業療法学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)保健・医療・福祉に貢献したいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人 (1-2)保健・医療・福祉に寄与するために基本となる豊かな人間性(他者への関心を持っていること、他者の気持ちをわかろうとする心があること、他者とコミュニケーションを取りたいという心があること、幅の広い関心や興味・視野があることなど)を持つ人 (1-3)高い倫理観と職業意識を持ち、さらにそれを向上させたいという熱意を持つ人 (1-4)自然科学や人文・社会科学を問わず、幅広く学問に興味があり、また、学びたいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人 (1-5)作業療法に関する幅広い専門知識と技術を学ぶ意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人 (1-6)創造性に優れ、新たな作業療法に関する知識や技術・システムを自らの手で創りたいという意欲を持ち、さらにその意欲を向上させたいという熱意を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している(知識・理解・実技能力)。 ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2)自ら見つけた問題に対し、積極的・意欲的に関わり、客観的な分析をし、自分の持つ知識と技能を用いて、解決しようとした経験を有している。(意欲、問題解決能力) (2-3)他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とコミュニケーションを取った経験を有している。(思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力) (2-4)保健・医療・福祉のみならず、教育、文化などに関わる社会の諸問題に関心があり、自らが積極的に関わっていくとする意欲がある。(関心・意欲) (2-5)グローバルな視野を持ち、国際社会の中で自分ができることを探そうとする意欲がある。(主体性・国際性) (3)入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 適性検査、調査書および面接の内容を総合して評価する。 (3-2)AO入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。 (3-6)外国人留学生入試 適性試験および面接から学習成果を総合的に評価する。

杏林大学 保健学部 診療放射線技術学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることがサポートできる人材を育成することを目的とする。 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。	保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることがサポートできる人材を育成することを目的とする。 診療放射線技術学科では、診療放射線技術分野における高い専門性と確かな技術力を身につけ、豊かな人間性と高い倫理観を併せ持つ、将来にわたって医療に貢献できる人材を養成することを目的とする。	保健学部診療放射線技術学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士(診療放射線学)の学位を授与する。 (1) 高度な専門知識と技術 診療放射線技術に関する高い専門知識と技術を持ち、活用できる。 (2) 高い倫理観 保健、医療に携わる者としての高い倫理観と強い使命感を持って社会に貢献できる。 (3) 問題解決能力 診療放射線技術分野における新しい課題を自ら発掘し、客観的分析と柔軟な発想により、問題を解決できる。 (4) コミュニケーション能力 関連専門職との緊密な連携と協働を実践するために必要なコミュニケーションを図ることができる。 (5) 社会的責任 地域医療の重要性と必要性を理解し、将来にわたって地域医療に貢献し、医療を通じて国際貢献を担うことができる。 (6) 生涯学習能力 診療放射線技術専門職として生涯を通して活躍するために必要なキャリアプランを自ら構築できる。	保健学部診療放射線技術学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の3つの区分からなる講義科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせた教育を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を表現する番号をふる科目ナンバリングを行い、また履修系統図、履修モデルを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学へのスムーズな移行を図るために 自然科学や放射線の科学および技術の基礎となる「基礎数学」、「基礎物理学」、「基礎化学」、「基礎生物学」の基礎教育科目を充実させ、専門教育へのスムーズな移行を図る。 (1-2) 専門となる専門知識と実践能力を修得するために 幅広い教養と知識を身につけつとともに、医療技術の進歩に対応できる基盤的能力を高めるため、自然科学や放射線科学、そして画像技術・IT 技術・コンピュータ技術といった、基礎を学ぶことを重視し、多様な専門科目と演習科目、学内実習や臨床実習を通して、診療放射線技術専門職として活躍できる幅広い専門知識と実践力、応用力を体系的に身につける。 (1-3) 確かな専門知識とより高度な専門性を修得するために 医療従事者に必要とされる医学知識の修得を目的とし、「疾病の成り立ち」、「画像医学」、「画像解剖学」などの講義に加えて、実践的な画像読影の演習を行うことで、必要とされる技術や判断力を診療放射線・治療分野で実践できる力を身につける。また、最新の診療画像情報技術、画像検査技術、放射線治療技術に対応できるように、「乳房検査技術学」や「MRI 検査技術学」、「医療の最先端」といった、より専門性の高い講義で学ぶことで、先端の知識と技術、問題を解決できる力を身につける。 (1-4) チーム医療を実践できる医療人になるために 患者を中心とするチーム医療の一員として、幅広いコミュニケーション能力と他の医療従事者と連携、協働できる能力を養い、同時に医療安全の確保に貢献するために、「医療倫理」、「医療安全学」を開講し、使命感・倫理観・責任感などの豊かな人間性を身につける。 (1-5) 国際的視野とコミュニケーション能力を修得するために 教養科目としての「英語」に加え「医学英語」を開講することで、医療を通じた国際貢献を担うことのできる国際的視野とコミュニケーション能力を身につける。 (1-6) 地域医療に貢献できる人材になるために 「地域と大学」などの科目を通して、地域社会の持続的な発展のために、高い倫理性を持って社会の中で自分の能力を積極的に役立てる能力を身につける。 (1-7) 創造性と問題解決能力を修得するために 学びの集大成として「卒業研究」を行い、研究課題の立案と実験の実施、結果の解釈と考察、論文作成に至る研究の流れを理解することで論理的思考力を養成するとともに、診療放射線技術の発展に寄与できる探究心と創造力を身につける。 (1-8) 診療放射線技師として社会に奉仕できる人材になるために 「医療総合演習」を通して、個人としての自立した考えや価値観を養い、診療放射線技術専門職として生涯を通して活躍するために必要なキャリアプランを自らが構築できる力を身につける。 (2) 教育方法 (2-1) 生涯学習力・問題解決能力・コミュニケーション能力を修得するために 生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材を育成するため、問題発見力・問題解決能力・自己表現力が修得できるような能動的学修方法(反転授業)を取り入れた実習科目を積極的に導入する。また、「卒業研究」では、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。 (2-2) 確かな専門知識を修得するために 応用力と問題解決能力を養う目的で、専門基礎科目に早期の段階から演習時間を設けるとともに、専門科目においても随所に演習時間を設定し、クリッカーを活用した双方向的な教育方法を取る。 (2-3) 確かな実践能力を修得するために 専門性の獲得のために必要とされる技術を体得するため豊富な実験・実習を行い、理論と実践を統合して学ぶ。 (2-4) 国際的な視野を身につけるために 海外研修・実習プログラムを導入し、医療を通じた国際貢献を考える機会を与える。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 4 年生では自学のみならず、外部機関が作成した模擬試験も活用し、国家試験合格への実力を把握する。 (3-3) 卒業の要件として大学生活で学んだ集大成である卒業論文の提出を学生全員に課し、卒業論文発表を複数の教員で査定し、4 年間の学習の成果を把握する。 (3-4) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部診療放射線技術学科では、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 健康に関心を持ち、保健・医療に貢献する意志を持つ人 (1-2) 人に対する深い思いやりの心を持つ人 (1-3) 学習意欲を持ち、新しい課題に積極的に取り組もうとする人 (1-4) 幅広い多角的な視野を持ち、主体的に考える姿勢を持った人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人材を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。(知識・理解・実技能力)つまり、高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2) 自ら見つけた問題に対し、積極的に・意欲的に関わり、客観的な分析をし、自分の持つ知識と技能を用いて、解決しようとした経験と意欲を有している。(意欲、問題解決能力) (2-3) 他者の立場や意見を尊重・理解した上で、自分の考えを的確に表現しながら、他者とコミュニケーションを取った経験と意欲を有している。(思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力) (2-4) 保健・医療・福祉のみならず、教育、文化などに関わる社会の諸問題に関心があり、自らが積極的に関わっていかうとする意欲がある。(関心・意欲) (2-5) グローバルな視野を持ち、国際社会の中で自分ができることを探そうとする意欲がある。(主体性・国際性) 3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) 一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 適性検査、面接および調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 保健学部 臨床心理学科 ポリシー（案）

理念・目的	教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学部は、本学の建学の精神である「真・善・美の探究」に基づいて、保健・医療・福祉の分野で、専門知識と技術を教授し、科学的なものの見方と思いやりを涵養して、将来広い視野から物事をとらえ、人々がより健康的に生きることがサポートできる人材を育成することを目的とする。 臨床心理学科は、心と身体についての専門知識、心理的援助のための技能、および高い倫理観をもち、質の高いコミュニケーションを通じて、医療、保健、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働分野で、心理的な援助を必要とする人々の QOL の維持・向上に貢献できる人材を養成することを目的とする。	保健学部の教育目標 高い倫理観と豊かな創造性、確かな専門知識と実務能力を持つとともに、幅広いコミュニケーション能力を生かし、チーム医療へ貢献する能力を有し、国際的視野を持って活動できる資質を有することを教育の目標とする。	保健学部臨床心理学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（臨床心理学）の学位を授与する。 (1) 確かな知識と技術の修得・研鑽 心の健康の保持増進に寄与する者として必要な基本的知識及び技術を修得し、これを実践の場で活用することができる。 (2) 幅広いコミュニケーション能力 多角的な視野とライフステージに対応した適切な人間理解とコミュニケーションスキルを身につけ、良好な対人関係を築くことができる。 (3) チーム医療・多職種連携へ貢献する能力 他者の立場や意見を理解した上で、自らの意見を表現し、連携・協働することができる。 (4) 主体的な問題解決能力 人の心と身体に関心を持ち、自ら問題を発見し、解決に必要な情報を、根拠に基づいて統合し、解決できる。 (5) 高い倫理観 他者を尊重し、自己を律し、心理的支援を要する者や地域社会のために貢献することができる。 (6) 国際的視野を持って地域で活動する能力 多様な価値観や異文化理解に立脚した心理的支援を行うことができる。また、グローバル社会に向けて自らが果たす役割を考え、活動することができる。	保健学部臨床心理学科では、入学者受入れの方針に掲げる能力などの修得のために、人文・社会学系、自然科学系、語学系からなる「基礎分野」、および基礎医学系、看護学・精神科リハビリテーション学系、心理学基礎科目系からなる「専門基礎分野」、心理学基礎科目系、心理学発展科目系、心理実習領域などからなる「専門分野」の 3 つの科目区分に授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する「科目ナンバリング」を行い、履修系統図を作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。さらに、単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 高校から大学への円滑な移行を図るために 初年次教育として、高い倫理観と幅広い教養を養うため、「哲学」「生命倫理学」「社会学」「法学」などを配置する。また、基礎医学系科目を理解するために必要な「基礎生物」「基礎化学」「基礎数学」などを配置し、学生ごとに不足知識が補完できる機会を設定する。 (1-2) 基礎医学教育の充実のために 基礎医学的知識を修得するため、「医学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「精神疾患とその治療」などの基礎医学系科目を配置する。 (1-3) 基礎心理学・臨床心理学の専門的知識を修得するために 基礎心理学系科目の充実を図るため、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」などを配置する。心理学の基礎理論を基盤に臨床心理学を学ぶ科目として、「臨床心理学概論」「健康・医療心理学」「心理学的支援法」「心理的アセスメント」「障害者・障害児心理学」などの臨床心理学系科目を配置する。 (1-4) 国際的視野でのコミュニケーション能力を開発するために グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、1 年次から 4 年次までの 4 年間を通して実用的な語学系科目である「英語 I ～IV」「英会話」「医学英語」を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。 (1-5) 問題解決能力を修得するために 基礎心理学・臨床心理学における解決すべき問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験を得るため、「基礎ゼミ」「卒業研究」を配置する。また、臨床場面における問題解決能力を修得するため、1 年次に「心理基礎実習」、2 年次に「心理実習Ⅰ」、3 年次に「心理実習Ⅱ」、4 年次に「総合実習」を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 主体的な問題解決能力を修得するために チーム医療・多職種連携へ貢献する人材としてのコミュニケーション能力や自己表現力、主体的な問題解決能力を修得するために、能動的学修（アクティブラーニング）を積極的に多くの授業に導入する。 (2-2) 確かな専門知識を修得するために 専門分野の各授業の中で基礎知識を伝えるとともに、各教員の臨床経験から得た応用知識も積極的に伝える。また、その知識と実務が結びつくような実習・演習科目の内容とする。 (2-3) 幅広いコミュニケーション能力とチーム医療・多職種連携に必要な能力を身につけるために 専門分野の各授業、および医療機関などでの見学・実習において、少人数のグループワーク、集団討論、学生による発表などの方法を積極的に導入する。 (2-4) 問題解決能力を身につけるために 「基礎ゼミ」「卒業研究」や臨床実習において、自ら気づき、考えた問題を具体的に検討し、解決する機会を積極的に導入する。 3) 成果の測定 (3-1) 各学期において、各科目の成績評価を国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 所定の臨床実習の評価を用いて、倫理観、実務能力、コミュニケーション能力などを評価する。 (3-3) 卒業研究に関しては、ゼミ形式で学生が主体的に学びを進められるようにし、更には研究成果の発表を行う。発表を複数の教員で査定し、4 年間の学習の成果を把握する。 (3-4) 卒業研究に関しては、所属するゼミでの評価や研究発表を基準に沿って評価することで、研究的態度や専門職者として研鑽し続ける姿勢に関する成果を評価する。 (3-4) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	保健学部臨床心理学科では、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 人の心や健康に関心をもち、保健医療、福祉、教育その他の分野に貢献する意思をもつ人 (1-2) 人に対する思いやりの心をもつ人 (1-3) 幅広い多角的な視野をもつ人 (1-4) 保健医療、福祉、教育その他の分野発展に関する学習意欲を備えている人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）および「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技術や能力を備え、伝えることを求める。 (2-1) 入学後の就学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・ 高等学校で履修する国語・社会・数学・理科（特に生物・化学・物理）・外国語などについて内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 (2-2) 知識、実験、見学、実習を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。（思考力・判断力） (2-3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力） (2-4) 人間・自然・文化などに関わる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲） (2-5) 積極的に他者と関わり多様な人々との対話を通じて相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接および適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、適性検査および調査書等の内容から学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入学試験（英語（必須）・国語・数学・物理・化学・生物から 2 科目選択）の成績を中心に調査書の内容を総合して評価する (3-4) センター試験利用入試 大学入学センター入学試験（英語（必須）・国語・数学・物理・化学・生物から 2 科目選択）の成績を中心に調査書の内容を総合して評価する (3-5) 帰国子女入試 面接および適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する (3-6) 外国人留学生入試 面接および適性試験（英語・国語・数学・物理・化学・生物より選択）および調査書の内容から学習成果を総合して評価する

杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
総合政策学部は、教育の本質を「総合的な教養」と「実践力」の涵養と考える。本学部はかかる教育の実現を目指し、単眼的な専門的知識のみに捉われない学際的教育を通じて、あらゆる社会科学の観点から複眼的・多角的に社会事象を考察・分析・評価し、さまざまな社会問題の解決に向けて行動する能力を備えた人材を育成することを目的とする。 総合政策学科は、社会をマクロの視点から捉え、政治、経済、法律、国際関係、福祉の各専門分野を総合的かつ学際的に学ぶことにより、グローバル社会における様々な問題を多面的に把握分析し、実践的に解決するための知識と能力を備えた人材を養成することを目的とする。	総合政策学部は教育目標・学際性豊かな知識を有し、複眼的な視点から社会現象を捉えることができること、解決すべき問題を客観的に分析する洞察力と、的確な判断をもって行動できるだけの知識運用力を身につけていること、他者とコミュニケーションを図り、多様な価値観を認識でき、かつ社会の一員として信頼される人間性を有すること。	総合政策学部総合政策学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目等の分野から成る授業科目を体系的かつ学際的に配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。 教育内容、教育方法、および成果の測定については以下のように定める。 (1) 多角的視野 社会のしくみやあるべき政策に関する諸問題を、一つの世界観に固執することなく、多角的視点からその多様性においてとらえることができる。 (2) 幅広い教養 高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。 (3) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力 問題を発見し、その本質を理解し、客観的な分析に基づいて判断し、その結果を適切に人に伝えることができる。 (4) ビジネス・ベーシック・スキル 読解力、文章力などの基礎的な能力や時事問題に対する常識的知見など、社会人として求められる基本的な能力・知識を身につけ、実践で活用できる。 (5) ライフ・デザイン・スキル 社会の一員としての自己の存在とその役割を、学問的視点に加えて、地域におけるより実践的な学びを通して、経験し、理解できる。 (6) 学際性の軸となる専門的な知識 ＜政治コース＞社会における異なる価値観や意見の対立のなかで、社会的選択と集団的意思決定の営みに関する政治学に係わる基本的知識を身につけ、活用できる。 ＜経済コース＞市場のメカニズムとその社会的相互依存関係、およびそこの政府の役割に関する経済学の基本的知識を身につけ、活用できる。 ＜法律コース＞社会の設計図であるさまざまな法律について、その内容、解釈、適用に関する基本的知識を身につけ、活用できる。 ＜国際関係コース＞日本をとりまく国際政治、さまざまな国際経済情勢について、その歴史、理論、政策に関する基本的知識を身につけ、活用できる。 ＜福祉政策コース＞さまざまなレベルにおける環境問題や、福祉政策に関連する課題の社会科学的分析とその政策に関する基本的知識を身につけ、活用できる。	総合政策学部総合政策学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目等の分野から成る授業科目を体系的かつ学際的に配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。 教育内容、教育方法、および成果の測定については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 大学での学びへの円滑な導入を図るために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。 (1-2) 多角的視野を涵養するために ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。 ・「政治」「経済」「法律」「国際関係」「福祉政策」の 5 コースに科目が配置され、主コースを選択し、専門性を高めながら、他コースの科目も履修することで多角的な視野を涵養する。 (1-3) 幅広い教養を身につけるために ・高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うために「一般教養科目」分野に科目を配置する。 ・「ベーシック科目」群および「プレゼミナール」を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。 (1-4) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力を育むために ・社会の問題に自ら気付き、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をするために、実践的な問題を中心にテーマを選定し、テーマに沿った授業が行われる「演習」、「卒業研究」などを配置する。 ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。 (1-5) 社会人としての基本的な能力を修得するために ・国内外の社会問題に対する基本的な知見を身につけるために「時事問題研究 A、B」を 1 年次に配置する。 ・社会で必要とされる思考力や文章能力に欠けることのないよう、「計算力演習 I、II」および「ライティング演習 I、II」を 2 年次に配置する。 (1-6) 自分のキャリアを描く能力を身につけるために ・「ライフ・プランニング I、II」を 1 年次に配置する。 ・さまざまな分野で活躍する人々の知見に接し、かつ面接やグループ・ディスカッションなどを念頭に実際の就職活動をシミュレーションとして経験できるように「キャリア開発論 I、II」「キャリア開発演習 I、II」を 3 年次に配置する。 ・身近な社会との連携の中で自己のキャリアを考え、経験できるように「地域と大学」を 1 年次に配置し、2 年次からインターンシップを配置する。 (1-7) 学際性の軸となる専門的知識を身につけるため ・各コースの専門科目は「コア科目」群、「応用科目」群に分類され、各分野における体系を明瞭に示す。 ＜政治コース＞政治学の基本的知識及びその身近な社会への応用力を修得するために、コア科目として「現代日本政治 A・B」や「政治コミュニケーション論」などを、応用科目として「比較政治学」や「地方自治と法」などを配置する。 ＜経済コース＞経済学の基礎的分析道具及びさまざまな現実経済への応用力を修得するために、コア科目として「ミクロ・マクロ経済学」や「国際経済学 A・B」などを、応用科目として「環境経済学」や「医療経済学」などを配置する。 ＜法律コース＞法律についてその内容、解釈、適用のための基本的知識と現実社会への応用力を修得するために、コア科目として「憲法 I・II」や「契約法」などを、応用科目として「医事法」や「企業取引法」などを配置する。 ＜国際関係コース＞国際政治経済情勢について、その歴史、理論、政策に関する基礎的知識とその現実への応用力を修得するために、コア科目として「国際政治学 A・B」や「国際機構論」などを、応用科目として「ヨーロッパ政治論」や「アジア経済論」といった世界の地域名を冠した政治論と経済論を配置する。 ＜福祉政策コース＞福祉・健康・環境に関連する課題の基礎的分析力とその現実への政策的応用力を修得するために、コア科目として「健康社会学」や「社会保障論 I・II」などを、応用科目として「介護政策論」や「環境政策論」などを配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 学際性を重視した教育を行うため ・ベーシック科目 7 科目のうち、5 科目を選択必修とし、コースの選択のみならず、さまざまな分野に関してその概要を学んだ経験を持たせる。 ・専門科目の履修に際しては、5 つのコースに加えて、企業経営学科に設置された 2 つのコースの専門科目を、学科横断的、コース横断的にさまざまなパターンで履修できるようにする。 (2-2) 社会のグローバル化への要請に対応するため ・グローバルキャリア・プログラムにおいては、ネイティブの教員、オンライン英会話等、実践性を重視した英語教育を行う。 ・グローバルキャリア・プログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。 (2-3) 高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に、国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 入学時と卒業時の 2 回にわたって、教育課程が達成した成果に関する学生自己評価調査を行う。 (3-3) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	総合政策学部総合政策学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組み意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人 (1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人 (1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけ、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人 (1-5) 公共領域というマクロの視点に軸足を置いて、政治・経済・法律・国際関係・福祉の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲を持ち、広く社会に貢献することを目指す人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。 具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。（思考力・判断力） (2-3) 自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力） (2-4) 社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲） (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接、小論文、調査書および資格・検定試験等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、課題、小論文、適性検査、活動報告書および実技等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接及び成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 入学試験（日本語）または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 総合政策学部 企業経営学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
総合政策学部は、教育の本質を「総合的な教養」と「実践力」の涵養と考える。本学部はかかる教育の実現を目指す、単眼的な専門的知識のみに捉われない学際的教育を通じて、あらゆる社会科学の観点から複眼的・多角的に社会事象を考察・分析・評価し、さまざまな社会問題の解決に向けて行動する能力を備えた人材を育成することを目的とする。 企業経営学科は、企業活動というミクロの視点に立ち、経営及び会計の各専門分野における知識の修得はもとより他の関連分野にも通暁し、グローバル社会において企業が求める幅広い知識と実務遂行のための能力、技能を備えた人材を養成することを目的とする。	総合政策学部の教育目標 学際性豊かな知識を有し、複眼的な視点から社会現象を捉えることができること、解決すべき問題を客観的に分析する洞察力と、的確な判断をもって行動できるだけの知識運用力を身につけていること、他者とコミュニケーションを図り、多様な価値観を認識でき、かつ社会の一員として信頼される人間性を有すること。	総合政策学部企業経営学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、これらをすべて修得すると認められる学生に、学士（企業経営学）の学位を授与する。 (1) 多角的視野 社会のしくみやあるべき政策に関する諸問題を、一つの世界観に固執することなく、多角的視点からその多様性においてとらえることができる。 (2) 幅広い教養 高い倫理観を持ち、ある特定の分野のみに限定されない、偏りのない、幅広い教養と知的好奇心とを身につけ、社会で活躍できる。 (3) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力 問題を発見し、その本質を理解し、客観的な分析に基づいて判断し、その結果を適切に人に伝えることができる。 (4) ビジネス・ベーシック・スキル 読解力、文章力などの基礎的な能力や時事問題に対する常識的知見など、社会人として求められる基本的な能力・知識を身につけ、実践で活用できる。 (5) ライフ・デザイン・スキル 社会の一員としての自己の存在とその役割を、学問的視点に加えて、地域におけるより実践的な学びを通して、経験し、理解できる。 (6) 学際性の軸となる専門的な知識 ＜経営コース＞ 企業活動に関する総合的、体系的原理、およびその戦略に関する経営学の基本的知識を身につけ、活用できる。 ＜会計コース＞ 企業活動を経理、財務といった資金循環の観点からとらえる会計学の基本的知識を身につけ、活用できる。	総合政策学部企業経営学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、キャリア関連科目、一般教養科目、ベーシック科目、専門科目、専門演習科目等の分野から成る授業科目を体系的かつ学際的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP 制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう担任制度を設け、丁寧な学生支援を行う。 教育内容、教育方法、および成果の測定については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 大学での学びへの円滑な導入を図るために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように少人数クラスの科目「プレゼミナール」を配置する。 (1-2) 多角的視野を涵養するために ・ひとつのテーマを巡り異なる専門分野の複数の教員が多角的な視点でテーマをとらえ、授業を進めていく「学際演習」を配置する。 ・「経営」「会計」の2コースに科目が配置され、主コースを選択し、専門性を高めながら、他コースの科目も履修することで多角的な視野を涵養する。 (1-3) 幅広い教養を身につけるために ・高い倫理観を持ち、幅広い分野にわたって教養を養うために「一般教養科目」分野に科目を配置する。 ・「ベーシック科目」群および「プレゼミナール」を通じて、さまざまな社会科学諸分野の概要を学ぶ。 (1-4) 問題解決能力と国際的なコミュニケーション能力を育むために ・社会の問題に自ら気づき、客観的な分析と高い意欲を持って問題を解決する経験をするために、実践的な問題を中心にテーマを選定し、テーマに沿った授業が行われる「演習」「卒業研究」などを配置する。 ・グローバル社会において必要なコミュニケーション能力の修得のために、外国語科目分野に複数の科目を配置し、国際的視野でのコミュニケーション能力の開発を図る。 (1-5) 社会人としての基本的な能力を修得するために ・国内外の社会問題に対する基本的な知見を身につけるために「時事問題研究 A、B」を1年次に配置する。 ・社会で必要とされる思考力や文章能力に欠けることのないよう、「計算力演習Ⅰ、Ⅱ」および「ライティング演習Ⅰ、Ⅱ」を2年次に配置する。 (1-6) 自分のキャリアを描く能力を身につけるために ・「ライフ・プランニングⅠ、Ⅱ」を1年次に配置する。 ・さまざまな分野で活躍する人々の知見に接し、かつ面接やグループ・ディスカッションなどを念頭に実際の就職活動をシミュレーションとして経験できるように「キャリア開発論Ⅰ、Ⅱ」「キャリア開発演習Ⅰ、Ⅱ」を3年次に配置する。 ・身近な社会との連携の中で自己のキャリアを考え、経験できるように「地域と大学」を1年次に配置し、2年次からインターンシップを配置する。 (1-7) 学際的学びの軸となる専門的知識を身につけるため ・各コースの専門科目は「コア科目」群、「応用科目」群に分類され、各分野における体系を明瞭に示す。 ＜経営コース＞経営学の基本的知識及びその現実の企業行動戦略への応用力を修得するために、コア科目として「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」や「マーケティング総論」などを、応用科目として「国際経営論」や「イノベーション論」などを配置する。 ＜会計コース＞会計学の基本的知識及びその実践的応用力を修得するために、コア科目として「財務会計論」や「商業簿記Ⅰ・Ⅱ」などを、応用科目として「税務会計論」や「財務諸表作成演習」などを配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 学際性を重視した教育を行うため ・ベーシック科目7科目のうち、5科目を選択必修とし、コースの選択のみならず、さまざまな分野に関してその概要を学んだ経験を持たせる。 ・専門科目の履修に際しては、5つのコースに加えて、企業経営学科に設置された2つのコースの専門科目を、学科横断的、コース横断的にさまざまなパターンで履修できるようにする。 (2-2) 社会のグローバル化への要請に対応するため ・グローバルキャリア・プログラムにおいては、ネイティブの教員、オンライン英会話等、実践性を重視した英語教育を行う。 ・グローバルキャリア・プログラムに参加しない学生にも、希望に応じてそのプログラム内の科目を履修する機会を設ける。 (2-3) 高い問題発見・解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題発見・解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に、国際的な成績評価指標である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 入学時と卒業時の2回にわたって、教育課程が達成した成果に関する学生自己評価調査を行う。 (3-3) 大学 IR コンソーシアム「学生共通調査」を実施し、学士課程の成果を把握する。	総合政策学部企業経営学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 多角的・複眼的視点に立って、社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題を、把握・分析・解決しようとする意欲を持つ人 (1-2) 様々な問題を理解し、問題解決のために必要な能力の土台となり得る科目の基礎を修得している人 (1-3) 様々な考えなどを的確に理解したり、適切に人に伝えたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-4) 社会人として求められる基礎的な能力や知見を身につけて、卒業後に社会において積極的に活躍する強い意志と意欲を持つ人 (1-5) 企業活動というミクロの視点に軸足を置いて、経営及び会計の分野を中心に、多角的視点から問題を把握・分析・解決することに意欲をもち、広く社会に貢献することを目指す人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。（知識・理解・実技能力） ・高等学校で履修する国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な日本語運用力と表現力を身につけている。 具体的には、文章読解力、課題に応じた内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 知識・技能を活用して、自ら問題を発見し、その解決に向けて物事を多角的視点から論理的に考察することができる。（思考力・判断力） (2-3) 自分の考えや知識、経験などを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力） (2-4) 社会の仕組みやあるべき政策に関する諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。（関心・意欲） (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接、小論文、調査書および資格・検定試験等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO 入試 面接、課題、小論文、適性検査、活動報告書および実技等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験の成績及び調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接及び成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 外国人留学生入試 入学試験（日本語）または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 外国語学部 英語学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
外国語学部は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。 英語学科は、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な英語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。	外国語学部の教育目標 正しい異文化理解に基づく21世紀型世界市民の育成を目指し、実践的かつ高度な外国語運用能力、問題解決能力、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力や社会人を身につけた人材を養成する。	外国語学部英語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士(文学)の学位を授与する。 (1)卓抜した外国語運用能力 ・母語だけではなく2つの外国語(特に英語・中国語)を実践的かつ高度に運用できる。 (2)コミュニケーション能力 ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (3)問題解決能力 ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (4)自己表現力・情報発信力 ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。 (5)異文化理解とグローバル人材力 ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 (6)高い倫理観と社会的責任遂行能力 ・相互に関連するグローバル社会・地域社会の持続的な発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (7)専門的な知識・技術・技能と活用力 ＜英語ビジネスコミュニケーションコース＞ ・グローバルビジネスで求められる基礎知識及びコミュニケーション能力を修得し、それを活用することができる。 ＜英語教育コース＞ ・グローバルビジネスで求められる基礎知識及びコミュニケーション能力を修得し、それを活用することができる。	外国語学部英語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語(英語・中国語)の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム(Practical English Program, Chinese for International Communication)を実施する。 ・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 ・高度な英語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」、専門科目として「Communication Strategies」などを配置する。 (1-2)コミュニケーション能力を修得するために ・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。 ・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。 (1-3)問題解決能力を修得するために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 ・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。 (1-4)自己表現力・情報発信力を修得するために ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 (1-5)異文化理解とグローバル人材力を修得するために ・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。 ・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジア・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。 (1-6)社会的責任遂行能力を修得するために ・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。 ・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。 (1-7)専門的な知識・技術・技能とその活用能力を修得するために ・各学科、コースに求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき以下のコースを設置し、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。 ＜英語ビジネスコミュニケーションコース＞ グローバルビジネスの場で求められる実践的英語力と、ビジネスに必要な基礎知識及び能力を修得するために、「ビジネスイングリッシュ」「グローバルビジネス論Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。 ＜英語教育コース＞ 教育・指導に必要な高度の英語力と英語教育スキルを修得するために、「英語音声学」「英語教育論」などの科目を配置する。 ・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。 (2)教育方法 (2-1)グローバル社会での適応能力を修得するために ・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。 (2-2)高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-3)社会的責任遂行能力の修得のために ・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。 (2-4)卓抜した外国語運用能力を修得するために ・英語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL(Content and Language Integrated Learning)手法を積極的に導入する。 (3)成果の測定 (3-1)各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2)外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。 (3-3)入学時基礎学力測定、大学1Rコンソーシアム「学生共通調査」及びブルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。	外国語学部英語学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)実践的かつ高度な英語運用能力を身につけ、教員等の語学教育の仕事やグローバル社会で活躍する仕事に就く意欲がある人 (1-2)外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-3)英語学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人 (1-4)外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人 (1-5)グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や言語運用能力を有している。(知識・理解・言語運用能力) ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な英語力および日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、(公財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、文章読解力、課題に応じて内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-3)知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-4)教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に対する関心を持ち、課外活動・社会的活動・国際的経験を積んだことがある。(関心・経験) (2-5)積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3)入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)推薦入試 面接、小論文および調査書、活動報告書、資格・検定試験等の結果の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)AO入試 面接および課題、調査書の内容から、または学習・活動歴(ルーブリック)、プレゼンテーションおよび小論文、調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3)一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4)センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5)帰国子女入試 面接および成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6)社会人入試 面接および小論文、学業成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-7)外国人留学生入試 入学試験(英語)または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 外国語学部 中国語学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
外国語学部は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。 中国語学科は、社会のニーズに対応できる実践的な中国語運用能力を開発し、高度な知見と技能の修得により、日中間の交流を担う、中国語の高度なコミュニケーション能力を具備した人材を養成することを目的とする。	外国語学部は教育目標正しい異文化理解に基づく21世紀型世界市民の育成を目指し、実践的かつ高度な外国語運用能力、問題解決能力、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力や社会人を身につけた人材を養成する。	外国語学部中国語学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらすべてを修得したと認められる学生に、学士(中国語コミュニケーション学)の学位を授与する。 (1) 卓抜した外国語運用能力 ・母語だけではなく2つの外国語(特に中国語・英語)を実践的かつ高度に運用できる。 (2) コミュニケーション能力 ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (3) 問題解決能力 ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (4) 自己表現力・情報発信力 ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。 (5) 異文化理解とグローバル人材力 ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 (6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力 ・相互に関連するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (7) 専門的な知識・技術・技能と活用力 ・ビジネス一般あるいは通訳・翻訳などの語学専門職で通用するのに十分な中国語コミュニケーション能力を修得し、それを活用することができる。	外国語学部中国語学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する(CAP制)。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語(中国語・英語)の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム(Chinese for International Communication, Practical English Program)を実施する。 ・実践的な中国語運用能力を高めるため、「中国語Ⅰ～Ⅷ」を配置する。 ・高度な中国語運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別中国語演習Ⅰ～Ⅴ」、専門科目として「インテンシブ中国語Ⅰ～Ⅷ」「中国語発音実習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 (1-2) コミュニケーション能力を修得するために ・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。 ・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。 (1-3) 問題解決能力を修得するために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 ・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。 (1-4) 自己表現力・情報発信力を修得するために ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 (1-5) 異文化理解とグローバル人材力を修得するために ・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。 ・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジア・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。 (1-6) 社会的責任遂行能力を修得するために ・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。 ・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。 (1-7) 専門的な知識・技術・技能とその活用力を修得するために ・各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。 ・グローバルビジネスの場で求められる実践的中国語力と、ビジネスに必要な基礎知識及び能力を修得するために、「ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ」「中国語ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。 ・通訳・翻訳などの語学専門職で求められる基礎知識及び能力を修得するために、「中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ」「中国語通訳法Ⅰ・Ⅱ」「日中通訳翻訳演習Ⅰ～Ⅳ」「中国語翻訳ワークショップ」などの科目を配置する。 ・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。 (2) 教育方法 (2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために ・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。 (2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修(アクティブラーニング)方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために ・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング(社会学修)を積極的に導入する。 (2-4) 卓抜した外国語運用能力を修得するために ・中国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL(Content and Language Integrated Learning)手法を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。 (3-3) 入学時基礎学力測定、大学1Rコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。	外国語学部中国語学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。 具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 実践的かつ高度な中国語運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍する事に就く意欲がある人 (1-2) 外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-3) 中国語学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人 (1-4) 外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人 (1-5) グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を持つ人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や言語運用能力を有している。(知識・理解・言語運用能力) ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な英語力および日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、(公財)日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、文章読解力、課題に応じて内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現力) (2-3) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(思考力・判断力) (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に対する関心を持ち、課外活動・社会的活動・国際的経験を積んだことがある。(関心・経験) (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。(態度・主体性・多様性・協働性) (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接、小論文および調査書、活動報告書、資格・検定試験等の結果の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO入試 面接および課題等の内容から、または学習・活動歴(ルーブリック)、プレゼンテーション、小論文、調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試試験(英語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験(英語または中国語および選択科目)の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接および成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 社会人入試 面接および小論文、学業成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-7) 外国人留学生入試 入学試験(日本語)または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 外国語学部 観光交流文化学科 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
外国語学部は、外国語の習得を通じて、「言葉」の持つ豊かな創造性とコミュニケーション機能の可能性を追求するとともに、異文化の垣根を越えて相互に理解し共存できる人間性そのものを陶冶し、実践的な外国語運用能力の開発を通じて、実社会の中で必要な専門的知識を備えた国際的な職業人を養成することを目的とする。 観光交流文化学科は、観光産業の現場における有益な人材を輩出するため、十分な外国語運用能力に基づいたコミュニケーション力を修得した上で、正しい異文化理解、さらには産業の現状把握を通じて「ホスピタリティ」を学習し、実践的に応用できる人材を養成することを目的とする。	外国語学部は、外国語の正しい異文化理解に基づく21世紀型世界市民の育成を目指し、実践的かつ高度な外国語運用能力、問題解決能力、良好な対人関係を築くためのコミュニケーション能力や社会人を身につけた人材を養成する。	外国語学部観光交流文化学科では、教育目標を達成するため、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、卒業の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、学士（観光交流文化学）の学位を授与する。 (1) 卓抜した外国語運用能力 ・母語だけではなく2つの外国語（特に英語・中国語）を実践的かつ高度に運用できる。 (2) コミュニケーション能力 ・グローバル社会で良好な対人関係を主体的に築くことを目指し、ホスピタリティに溢れたコミュニケーションができる。 (3) 問題解決能力 ・知識・技能を活用しながら、自ら問題・課題を発見し、客観的分析と柔軟な発想によって問題を解決することができる。 (4) 自己表現力・情報発信力 ・他者の意見・主張を尊重し理解した上で、議論・交渉の場において自らの意見を明確に表現し、新たな情報を創造・発信することで建設的な結論を導くことができる。 (5) 異文化理解とグローバル人材力 ・幅広い教養を身につけ、多様な価値観の認識・尊重と正しい異文化理解に基づいて、グローバル社会で他者と協働し活躍することができる。 (6) 高い倫理観と社会的責任遂行能力 ・相互に関連するグローバル社会・地域社会の持続的発展のために、将来を見据え自律的に行動し、他者と協調・協働しながら、高い倫理観を持ち、社会的責任を積極的に果たすことができる。 (7) 専門的な知識・技術・技能と活用能力 ・観光・ホスピタリティに関する基礎知識に加え、ホスピタリティをキーワードとするビジネス及び地域・国際社会において観光による人的交流を創出させる上で求められる能力を修得し、それを活用することができる。	外国語学部観光交流文化学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、外国語科目、基盤教育科目、教養科目そして専門科目の4つの科目区分から成る授業科目を体系的かつ順次的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を実施する。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の順次性を番号で表現する科目ナンバリングを行い、カリキュラムマップを作成することで、カリキュラムの構造をわかりやすく明示する。単位制度の実質化を図るため、履修可能上限単位を適切に設定する（CAP制）。また、学生が学修に専念し安定した学生生活を送ることができるよう、アカデミックアドバイザー制度を通して学生支援を行う。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語（英語・中国語）の実践的かつ高度な運用能力の基盤を築くため、学部独自の外国語習得プログラム（Practical English Program, Chinese for International Communication）を実施する。 ・実践的な英語運用能力を高めるため、「実用英語Ⅰ～Ⅳ」「実用英語演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。 ・高度な語学運用能力を修得するため、外国語科目として「目的別英語演習Ⅰ～Ⅶ」「目的別中国語演習Ⅰ～Ⅴ」、専門科目として「観光英語Ⅰ～Ⅳ」「観光中国語Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 (1-2) コミュニケーション能力を修得するために ・対人コミュニケーション力を涵養するため、「ホスピタリティ入門」「ホスピタリティ・コミュニケーション」などの実践的科目を配置する。 ・グローバル社会で通用するコミュニケーションの在り方を理解するため、「グローバルコミュニケーション論」などの科目を配置する。 (1-3) 問題解決能力を修得するために ・学士課程へのスムーズな移行のための初年次教育として、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるように「大学入門Ⅰ・Ⅱ」などを配置する。 ・専門科目として、自ら問題・課題を発見し、解決する能力を高めるため「ゼミナールⅠ～Ⅲ」「卒業論文・課題指導」を配置する。 (1-4) 自己表現力・情報発信力を修得するために ・日本語での自己表現力・情報発信力を高めるため、初年次教育として「日本語表現実習Ⅰ・Ⅱ」を配置する。 ・日本の伝統・歴史・文化を表現・発信することを目指し、「日本文化論」「日本と世界の近現代史」「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」（英語発信・中国語発信）などを配置する。 (1-5) 異文化理解とグローバル人材力を修得するために ・グローバル社会において必要とされる幅広い教養を身につけるため、「ことばと文化」「グローバル社会と地域」「人間と健康」「日本語教育」等の分野に分類して教養科目を配置する。 ・多様な価値観の認識と正しい異文化理解を深めるため、「グローバル人材論」「異文化コミュニケーション」「アジア・ホスピタリティ」「ダイバーシティ入門」などを配置する。 (1-6) 社会的責任遂行能力を修得するために ・地域社会の持続的な発展のために、他者と協調・協働しながら自分の能力を積極的に役立てる力の修得を目指し、「地域と大学」「フィールドスタディⅠ～Ⅴ」などを配置する。 ・将来を見据え自律的に行動し、学士課程修了後に社会的責任を遂行するために、「キャリアデザインⅠ～Ⅵ」「キャリアデザイン演習」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などのキャリア教育科目を配置する。 (1-7) 専門的な知識・技術・技能とその活用能力を修得するために ・各学科に求められる共通の基礎専門能力と、それらをさらに発展させた専門能力を修得するため、専門分野の体系に基づき、必修科目と選択科目を区別し、学年・学期別の科目配置を行う。 ・観光・ホスピタリティに関する知識及び能力を修得するために、「観光学入門」「ホスピタリティ入門」「サービス産業論」を1年次科目として配置した上で、「国際観光論」「交流文化論」「旅行産業論」などの専門科目を2年次以降に配置する。 ・観光産業において求められる能力である、他者との協調・協働による問題解決能力を修得するために、「プロジェクト演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置する。 ・個別テーマに関する専門的知識・技術・技能を獲得するとともに、それらを課題解決に活用する能力を修得するために、3・4年次に「ゼミナールⅠ～Ⅲ」を必修科目として配置する。 (2) 教育方法 (2-1) グローバル社会での適応能力を修得するために ・グローバル社会での適応能力を涵養するため、海外留学・研修・実習プログラムを積極的に導入する。 (2-2) 高い問題解決能力と自己表現力・情報発信力を修得するために ・問題解決能力・自己表現力・情報発信力を修得できる能動的学修（アクティブラーニング）方法を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-3) 社会的責任遂行能力の修得のために ・グローバル社会と地域の双方を舞台にした活動体験・現場体験を通して適応能力を涵養するため、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティアなどのソーシャルラーニング（社会学修）を積極的に導入する。 (2-4) 卓抜した外国語運用能力を修得するために ・外国語による専門的な知識・技術・技能の修得を図るために、CLIL（Content and Language Integrated Learning）手法を積極的に導入する。 (3) 成果の測定 (3-1) 各学期終了時に国際的な成績評価指標であるGPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 外国語の運用能力を高めるため、学年ごとに目標を設定し、その達成度を検証するための共通テストを実施する。 (3-3) 入学時基礎学力測定、大学IRコンソーシアム「学生共通調査」及びルーブリックを用いて学士課程全体の成果を測定する。	外国語学部観光交流文化学科は、本学科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 実践的な外国語運用能力を身につけ、観光・ホスピタリティに関連する分野で活躍する仕事に就く意欲がある人 (1-2) 外国語や日本語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つ人 (1-3) 観光交流文化学科での修学について強い好奇心・関心を持ち、問題について自発的に探究し、思考力・判断力・表現力を駆使して、問題解決につなぐ意欲を持つ人 (1-4) 外国語や異文化に対する興味・関心を持ち、広い視野や国際感覚、国際協調の精神を身につける意欲を持つ人 (1-5) グローバル社会・地域社会において、主体性を持って多様な人々と協働し学ぶ態度を持つ人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や言語運用能力を有している。（知識・理解・言語運用能力） ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。 ・基本的な英語力および日本語運用力と表現力を身につけている。具体的には、（公財）日本英語検定協会による実用英語技能検定準2級に相当する英語運用能力を入学までに身につけている。日本語は、文章読解力、課題に応じて内容をまとめる力などの表現力を身につけている。 (2-2) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。（技能・表現力） (2-3) 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて物事を多面的かつ論理的に考察することができる。（思考力・判断力） (2-4) 教育、人間、自然、文化などにかかわる諸問題に対する関心を持ち、課外活動・社会的活動・国際的経験を積んだことがある。（関心・経験） (2-5) 積極的に他者と関わり、多様な人々との対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。（態度・主体性・多様性・協働性） (3) 入学者選抜の基本方針 本学科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 推薦入試 面接、小論文および調査書、活動報告書、資格・検定試験等の結果の内容及から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) AO入試 面接および課題、調査書の内容から、または学習・活動歴（ルーブリック）、プレゼンテーション、小論文、調査書の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 一般入試 一般入試試験（英語および選択科目）の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-4) センター試験利用入試 大学入試センター試験（外国語および選択科目）の成績を中心に、調査書の内容を総合して評価する。 (3-5) 帰国子女入試 面接および成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-6) 社会人入試 面接および小論文、学業成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-7) 外国人留学生入試 入学試験（日本語）または日本留学試験の成績と面接の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士前期課程）保健学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科保健学専攻博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められた学生に、修士(保健学)の学位を授与する。 (1)保健、医療、福祉領域の高度専門職業人としての知識 ・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。 (2)保健、医療、福祉領域の高度専門職業人としての技術 ・専攻する専門分野の高度な技術を修得し、高度専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導・教育の役割を担うことができる。 (3)医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 ・患者の病態を理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たすことができる。 ・組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。 (4)課題解決のための広い視野と学際的識見 ・保健、医療、福祉領域の諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決には、保健、医療、福祉の連携と協調が必要であることや、他の学問領域の視点で見ることが重要であることを理解し、課題を解決することができる。 (5)研究遂行能力 ・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。 (6)高い倫理観と国際的視野 ・他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。	保健学研究科保健学専攻博士前期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、「臨床検査・生命科学」「保健学」「救急救命学」「臨床工学」「リハビリテーション科学」の5専門分野を設け、以下に示した教育課程編成方針に基づきコースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。コースワークは、専門分野科目と研究科共通科目の2群からなり、講義・演習・実験などを適切に組み合わせ、専門知識や技術、実践能力の効果的な修得につながる授業を行う。これらの科目は、体系的に理解できるようカリキュラムマップにより可視化する。保健、医療、福祉は、研究においても実践においても連携や協調が必要であること、また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目や他専攻(看護学専攻)の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)保健、医療、福祉領域の高度専門職業人としての知識を修得するために ・学部で修得した専門知識をブラッシュアップし、高度専門職業人としての実践力の基盤となる理論やメカニズム、科学的根拠への理解を深め、臨床応用・発展させるために、5専門分野それぞれに講義科目「免疫学特論」、「保健管理学」、「血液浄化療法学」、「中毒学」、「運動器理学療法学特論」などを配置する。 (1-2)保健、医療、福祉領域の高度専門職業人としての技術を修得するために ・高度専門職業人としての実践力のレベルアップを目指すとともに、現場での指導・教育力を高めるために、各専門分野に多様な演習科目「細胞診断学演習」、「血液細胞培養・分析技術」、「生物統計学演習」、「環境影響評価技術」、「理学療法機能評価学演習」、「神経心理学検査法演習」などを配置する。 (1-3)医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力を高めるために ・臨床的判断力を高め、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての実践力を修得するために、研究科共通科目として臨床医学科目の「循環器病学」、「呼吸器病学」、「救急医学」などを配置する。 ・事象の発生要因の分析方法や対策の立案、実施、評価、見直しなど、組織的なマネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を修得するために、研究科共通科目として「感染管理論」、「医療安全管理論」を配置する。 (1-4)課題解決のための広い視野と学際的識見を培うために ・保健、医療、福祉領域の諸課題解決に必要な広い視野と学際的識見を培うために、研究科共通科目として「専門横断モジュール科目」や、専攻する専門分野以外の科目を配置する。 (1-5)研究遂行能力や倫理観、国際的視野を獲得するために ・研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際に必要な能力を修得し、研究者としての倫理観と国際性を培うために、リサーチワークとして「特別研究」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)保健、医療、福祉領域の高度専門職業人としての知識と技術、臨床判断力やマネジメント力を修得するために ・少人数授業体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業展開で能動的学修(アクティブ・ラーニング)を促進する。 (2-2)課題解決のための広い視野と学際的識見を培うために ・専攻・専門分野を超えて広く、保健・医療・看護・福祉の分野にわたる学際的識見を培うための教育方法を積極的に取り入れる。 ・研究科共通科目における多様な専門職種(の)学生による集団討論を積極的に取り入れる。 (2-3)研究遂行や、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得するために ・指導教員がきめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1)履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価であるGPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2)学期ごとの学生自己評価により、高度専門職業人としての知識と技術や能力の修得状況を測定する。 (3-3)修士論文発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	保健学研究科保健学専攻博士前期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1) 保健・医療・福祉領域の専門分野の知識や技術をより高めたいという意欲を持っている人 (1-2) 保健・医療・福祉とその関連領域の問題や課題に関心を持ち、研究的に解明・解決したいという熱意を持っている人 (1-3) 保健・医療・福祉領域の職業人としての指導力をつけるために、広い視野とマネジメント力を培いたいという意欲を持っている人 (1-4) 保健・医療・福祉領域の教育・研究者を志向し、その基盤となる素養や研究力を培いたいという人。 (1-5) 大学院での学修や研究成果を社会に還元し、保健・医療・福祉領域の改善や進歩に貢献したいという熱意を持っている人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 保健、医療、福祉とその関連領域の学士あるいは、それと同等の基礎学力および英語力を有する。(知識・技能) (2-2) 保健、医療、福祉領域の専門的知識・技術を有する。(知識・技能) (2-3) 自らの研究的関心について背景や理由等を論理的に要約し、説明や質疑応答ができる。(能力) (2-4) 主体性と協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。(態度) (2-5) 虚偽や曖昧さを許さず、真摯に忍耐強く研究に取り組むことができる。(態度) (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 ・志願する専門分野に関する専門科目、英語科目、面接から、求める学生像、資質および学習成果を評価する。 (3-2)社会人特別選抜 ・志願する専門分野の課題に対する小論文、英語科目、面接から、求める社会人学生像、資質および学習成果を評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士後期課程）保健学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科保健学専攻博士後期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、博士（保健学）の学位を授与する。 (1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識 ・専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの知識を活用できる。 (2) 先行研究を批判的に吟味できる能力 ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。 (3) 専門分野における課題発見能力 ・学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持ち、課題を発見できる。 (4) 研究遂行能力 ・自ら発見した課題を解決するために、仮説の設定、研究デザイン、データの収集・分析、考察に至るプロセスを自立して行い、論文を執筆することができる。また、高度なプレゼンテーション能力、他人を納得させることができる高いコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。 (5) 高い倫理観 ・生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。	保健学研究科保健学専攻博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、保健・医療・福祉領域の専門分野を、さらに「臨床検査・生命科学」「保健学・救急救命学」「臨床工学」「リハビリテーション科学」の4専門分野に分けて、以下に示した教育課程編成方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置する。コースワークは講義と演習を適切に組み合わせ、専門知識の効果的な修得につながる授業を行う。これらの科目は体系的に理解できるよう、カリキュラムマップにより可視化する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の最新知識を修得するために ・専攻する専門分野の近年の研究動向や最新の知見、理論、技術や治療法などの最新専門知識を修得するために、4専門分野それぞれに講義科目「薬物動態解析学」、「心理学」、「先端臨床工学」、「徒手理学療法学」、「生活支援工学」などを配置する。 (1-2) 先行研究を批判的に吟味できる能力を培うために ・欧米の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味できる能力を修得するために、各専門分野に欧米の学術論文を輪読し、集団でディスカッションを行うセミナー形式のジャーナルクラブ「感染症学セミナー」「疫学セミナー」「救急医学・中毒学セミナー」「生理学・医用基礎工学セミナー」などを配置する。 (1-3) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を培うために ・研究課題発見能力として求められる、学際的・国際的な視野での科学的思考力と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を培うために各専門分野に講義科目、セミナーを配置する。 (1-4) 研究遂行能力や高い倫理観、国際的視野を培うために ・自ら発見した課題の解決に向け、自立して行える研究遂行能力・論文執筆力・論文発表の際に必要な能力を修得し、研究者としての高い倫理観と国際性を培うために、リサーチワークを配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を培うために ・学術論文の抄読、プレゼンテーション、クリティカルな討論を積極的に取り入れる。 ・問題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 (2-2) 研究遂行や、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価であるGPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を評価する。集団討論、口頭試問への解答、筆記試験、レポートなど複数の方法で、課題発見能力の測定を行う。 (3-3) 博士論文発表会および博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観・国際性・論文執筆力・論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	保健学研究科保健学専攻博士後期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 保健・医療・福祉領域の最新専門知識や高度技術を修得するとともに、学際的な識見を深めて、高度専門職業人としての実践力や指導力のレベルアップを図りたいという意欲を持っている人 (1-2) 保健・医療・福祉行政における問題・課題発見能力と解決能力を高め、その成果を保健・医療・福祉行政に反映させたという熱意を持っている行政職の人 (1-3) 保健・医療・福祉領域の教育・研究者としての学問的基盤を確立し、グローバルに活躍したいという意欲を持っている人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 保健・医療・福祉とその関連領域の修士課程修了者としての、高度かつ専門的な知識や技術を有している。(専門的知識・専門的技能) (2-2) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の欧米の学術論文を読みこなせる英語力を有する。(専門的知識・専門的技能・国際性) (2-3) 専攻する保健、医療、福祉の専門分野の課題解決のための研究遂行能力、論文執筆力や論文発表におけるプレゼンテーション力を有する。(研究遂行能力) (2-4) 主体性、協調性、積極性を持って教職員や他学生と交わり、相互理解を深めることができる。(コミュニケーション能力) (2-5) 研究倫理を熟知し、重要性を十分認識している。(倫理観) (2-6) 安易に妥協することなく、忍耐強く研究に取り組むことができる。(研究遂行能力) (3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 ・志願する専門分野に関する専門科目、英語科目、面接から求める学生像、資質および学修成果を評価する。 (3-2) 社会人特別選抜 ・志願する専門分野の課題に対する小論文、英語科目、面接から、求める社会人学生像、資質および学修成果を評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士前期課程）看護学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科看護学専攻博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に、修士(看護学)を授与する。 (1)看護・保健領域の高度専門職業人としての能力 看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。 (2)看護・保健領域の高度な知識・技術 高度実践看護師(専門看護師)として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。 (3)高い倫理観と研究遂行能力 看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。	保健学研究科看護学専攻博士前期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、基礎看護科学、実践看護科学、専攻共通科目、研究共通科目の専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実験・実習などを適切に組み合わせた授業を行う。これらの科目は、体系的に理解できるようカリキュラムマップにより可視化する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)看護・保健領域の高度専門職業人としての能力を修得するために ・看護・保健領域における専門性の強化、国際的視野も含めた広い視野とマネジメント能力養成を目指し、専門的知識を修得し判断力・実践力・指導力を獲得するために、基礎看護領域および医療安全領域の基礎看護科学分野・各看護実践領域・高度実践看護師教育課程の実践看護科学分野を配置する。 (1-2)看護実践者および高度実践看護師(専門看護師)としての知識、技術を修得するために ・看護学専攻共通科目における看護研究や看護実践に必要な知識の修得を目的に、主科目に各専門領域の講義・演習科目、副科目に関連する他領域の科目を配置する。また、専門看護師に必要な専門知識を修得するために高度実践看護師教育課程を配置する。 ・高度実践看護師教育課程(専門看護師教育課程)においては、高い実践能力修得の質を確保するため、日本看護系大学協議会から認定された「がん看護専門看護師課程」「クリティカルケア看護専門看護師課程」「精神看護専門看護師課程」を配置する。この教育課程で定められた講義・演習科目に従って教育指導する。 (1-3)高い倫理観と研究遂行能力を修得するために ・看護領域における課題解決に必要な研究遂行能力や倫理観を培うために、リサーチワークとして「看護研究方法論」「特別研究」を配置する。 (2)教育方法 (2-1)看護領域の高度専門職業人としての知識と技術、臨床判断能力やマネジメント能力を獲得するために ・学生の実務経験、研究経験に応じて、看護領域における諸課題を解決するための知識の幅が広がることが期待される科目、修士論文作成に必要な科目、基礎的な素養の涵養に役立つ共通科目について分野を超えて自由に選択できるように設定し、小人数できめ細やかに指導する。 (2-2)研究遂行能力を修得するために ・指導教員が研究指導計画及び学生の作成する履修計画に基づき、きめ細やかに論文執筆や論文発表の指導を行う。また、論文発表に必要な能力を修得するために研究報告会を実施する。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (3)教育成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がつているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) で評価する。 (3-2) 学期ごとの学生自己評価により、高度専門職業人としての知識と技術や能力の修得状況を測定する。 (3-3) 修士論文発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	保健学研究科看護学専攻博士前期課程では、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には以下のような資質を求めている。 (1)求める学生像 (1-1) 研究者として、看護学の研究課題を探索する明確な目的意識を持つ人 (1-2) 看護ケアの質向上を目指し、高度実践看護師として、看護の課題を探索するための基礎的な知識と高度な実践能力を持つ人 (1-3) 看護実践の質の向上に貢献する意志と熱意を持つ人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 看護学専攻博士前期課程の教育を受けるための基礎的学力を持ち、課題を研究的視点からとらえることができる。(知識・技能) (2-2) 看護学における課題を解決するための知識・思考力・判断力・表現力を有し、実践力を有する。(知識・思考力・判断力・表現力) (2-3) 幅広い視野を得るために他分野の領域の学生とも積極的にディスカッションし、理解を深めながら学ぶ能力を有する。(態度) (3)入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 ・英語問題、専門科目および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門基礎知識を有しているか、高度実践看護師としての基礎的知識と実践力を有しているか、博士前期課程の 2 年間で修士論文が作成できるか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。 (3-2)社会人特別選抜 ・英語および一般選抜の専門問題に当たる小論文および面接から、英語科学論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士前期課程の 2 年間で修士論文が作成できるか、高度実践看護師としての基礎的知識と実践力を有しているか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

杏林大学 大学院 保健学研究科（博士後期課程）看護学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
保健学研究科は、保健、医療、看護及び福祉の専門分野において、広い視野と豊かな学識を有し、専門性の高い業務を遂行する人材、並びに研究能力を有する人材を養成することを目的とする。	保健・医療・看護・福祉の各専門分野における高度専門職業人、および研究・教育者に求められる高度な知識・技術を修得させるとともに、それぞれの分野の諸課題や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。	保健学研究科看護学専攻博士後期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に、博士(看護学)を授与する。 (1) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。 (2) 優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。 (3) 高い倫理観と研究遂行能力 高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。	保健学研究科看護学専攻博士後期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、保健、医療、福祉領域の専門分野を、「基礎看護科学」「実践看護科学」「ジャーナルクラブ」「特別研究」の 4 分野に分けて、以下に示した方針に基づき、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習などを適切に組み合わせた授業を行う。これらの科目は体系的に理解できるよう、カリキュラムマップにより可視化する。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 専門領域における最新知識を基に看護ケアの開発や看護実践を組織的にマネジメントできる能力を修得するために ・基礎看護領域および感染および医療安全領域の基礎看護科学分野、各看護実践領域の実践看護科学分野の科目を配置する。 (1-2) 専門領域における国際的な研究動向や知識を修得するために ・主科目に各専門領域の講義科目、専門領域の国内外の諸理論、研究方法論を修める科目を、副科目に関連する他領域の科目、英語教育科目を配置する。 ・国際的な研究動向や知識を修得するために「ジャーナルⅠ」「ジャーナルⅡ」を、英語での論文作成能力を修得するために「英語論文作成法」を設置する。 (1-3) 高い倫理観と研究遂行能力を修得するために ・高い倫理観と、国際的視野、研究遂行能力を修得するために研究計画から論文作成に至る過程にそって保健学研究科全体での指導体制のもと、「特別研究ⅠⅡⅢ」を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 専門領域における最新知識を基に看護ケアの開発や看護実践を組織的にマネジメントできる能力を修得するために ・学生の実務経験、研究経験に応じて、看護学の諸問題を解決するための知識の幅が広がることが期待される科目、博士論文の作成に重要な科目、基礎的な素養の涵養に役立つ科目について分野を超えて自由に選択できるように設定し、きめ細かに指導する。 (2-2) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が研究指導計画及び学生の作成する履修計画に基づき、きめ細やかに論文執筆や論文発表の指導を行う。また、論文発表に必要な能力を修得するために研究報告会を実施する。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。 (3) 教育成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、博士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 専攻する専門分野における研究課題発見能力を評価するため、集団討論、口頭試問への回答、筆記試験、レポートなど複数の方法で、課題発見能力の測定を行う。 (3-3) 博士論文発表会および博士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	保健学研究科看護学専攻博士後期課程は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には以下のような資質を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 研究者としての倫理観、看護学の研究課題を探索する明確な目的意識を持つ人 (1-2) 看護学における研究を推進する基礎的な研究能力と高度な実践能力を持つ人 (1-3) 看護実践の質の向上と看護学の体系化に貢献する意志と熱意を持つ人 (1-4) 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 看護学専攻博士後期課程の教育を受けるための基礎的学力を持っている。(専門的知識・専門的技能) (2-2) 看護学における課題への研究的関心事象について科学的思考を持ってとらえ、論理的に表現できる能力を有している。(問題解決能力) (2-3) 幅広い学際的視点を修得するために他分野の領域の学生とも積極的にディスカッションし、相互理解を深めながら学ぶ能力を有する人。(コミュニケーション能力) (2-4) 研究計画を立案・遂行し、論文を作成する基礎的能力を養うことができる。(研究遂行能力) (3) 入学者選抜の基本方針 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 ・英語問題、専門科目および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の 3 年間で博士論文が修了できる計画であるか、看護学専攻博士課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。 (3-2) 社会人特別選抜 ・英語および一般選抜の専門問題に当たる小論文および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士後期課程の 3 年間で博士論文が修了できる計画であるか、看護学専攻博士課程の研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。

杏林大学大学院 国際協力研究科（博士前期課程）国際開発専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。 国際開発専攻は、世界諸地域の経済社会の発展に資するための開発及び国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的・実証的に究明するとともに、わが国の政治・経済・経営及び法律税務の各専門領域について考究し、これらを通じて必要な専門知識の修得はもとより関連分野にも通曉し、実務にも対応できる人材の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識・豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科国際開発専攻では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、修士（開発学）の学位を授与する。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 国際性を持って国際開発の実践に必要な論理を展開できる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的・政策的に分析して問題を処理することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 世界諸地域の社会の発展に資する開発及びその施策について理解を深め、国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能（他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力を含む）を駆使することができる。 (4) 研究遂行能力 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科国際開発専攻は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、国際政治・国際経済・国際ビジネス・法律税務の 4 つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培うために ・国際協力に関する知識を広め、理解を深めるために「国際協力特論」、「国際開発特論」などの科目を配置する。 ・高度な理論を身につけるために、「国際政治特論」、「国際経営特論」、「憲法特論」などの科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的・政策的に分析し問題を処理する能力を培うために ・課題の理論的・実証的・政策的分析技能と問題の処理能力を高めるために「国際政治経済特論」、「国際貿易特論」、「経営特論」、「租税法特論」などの科目を配置する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために ・世界諸地域の社会の発展に資するための開発及び国際協力のあるべき方法・施策を社会科学諸分野にわたり、理論的・実証的に究明しつつ、高度専門職業人に必要な諸技能を身につけるために「国際法特論」、「比較政治学特論」、「国際会計特論」、「比較法特論」などの科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことのできる研究遂行能力を培うために ・自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を生かす能力を身につけるために、コースワークを踏まえたリサーチワーク「論文指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会で多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がつているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 論文公開発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	国際協力研究科国際開発専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際開発に対する高い関心 世界諸地域の経済社会の発展に寄与することに関心があり、社会科学的研究を遂行するのに適した問題意識と能力を有する人 (1-2) 研究、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的・政策的に分析して解明する能力・技術を習得し、研究成果を実践活動に生かして国際開発に関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 国際開発の実践に必要な論理を修得する知識と能力を有している。（知識） (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得しようとする意欲と能力を備えている。（思考力・判断力） (2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている。（態度・技能） (2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と基礎的な能力を備えている。（研究遂行能力） (3) 入学者選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験（英語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験（日本語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文および面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4) 国際協力特別選抜 面接および青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 国際協力研究科（博士前期課程）国際文化交流専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。 国際文化交流専攻は、国際的な視座に基づき日本を中心とする世界諸地域の言語と文化の特質を学術的に研究し、この成果を実践的諸形態に還元するための具体的な方法を考究すると共に、この分野での先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を身につけた、我が国の国際協力推進に寄与する人材の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科国際文化交流専攻では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、修士(学術)の学位を授与する。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 国際文化交流の実践に必要な論理を国際性を持って展開できる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的に分析して問題を処理することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 世界諸地域の社会・文化及びその交流について理解を深め、国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能(他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力を含む)を駆使することができる。 (4) 研究遂行能力 問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科国際文化交流専攻は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、言語研究・言語文化研究・文化交流研究の3つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培うために 人間の思考の表出形式である言語そのものに対する理解を深め、「心の交流」の「心」の姿を考察し、高度な理論を身につけるために「言語学特論」、「対照言語学特論」、「対照音韻学特論」などの科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的・政策的に分析し問題を処理する能力を培うために 言語と文化の関わりを究明し、異文化社会が「心の交流」をより豊かに実現するための課題を分析し、問題処理能力を高めるために「言語文化相関論」、「日本語文化特論」、「日本語教育特論」などの科目を配置する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために 世界諸地域の社会・文化を理解する方法を学び、文化交流の理念を理解し、国際観光という観点にも立脚しつつ、高度専門職業人に必要な諸技能を身につけるために「日本文化特論」、「文化交流特論」、「現代中国文化社会特論」などの科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことのできる遂行能力を培うために ・自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を生かす能力を身につけるためにコースワークを踏まえたリサーチワーク「論文指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会で多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価であるGPA (Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 論文公開発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	国際協力研究科国際文化交流専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際文化交流に対する高い関心 日本と外国の文化に興味と関心があり、グローバルな視点から国際感覚、国際協調の精神を身につけようと努力する人 (1-2) 研究、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的に分析して解明する能力・技術を習得し、研究成果を実践活動に生かして文化交流に関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 国際文化交流の実践に必要な論理を修得する知識と能力を有している。(知識) (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得しようとする意欲と能力を備えている。(態度・思考力・判断力) (2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている。(態度・技能) (2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と基礎的な能力を備えている。(研究遂行能力) (3) 入学選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験(英語)、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験(日本語)、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文および面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4) 国際協力特別選抜 面接および青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 国際協力研究科（博士前期課程）国際医療協力専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。 国際医療協力専攻は、世界諸地域に対する保健医療分野の国際協力に必要な幅広い知識と高度な理論を身に付け、国際社会での実践活動に貢献すると共に、問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を活かすことのできる人材の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科国際医療協力専攻では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、修士（国際医療協力）の学位を授与する。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 ・国際性を持って国際医療協力の実践に必要な論理を展開できる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 ・国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的に分析して問題を処理することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 ・世界諸地域に対する保健医療福祉分野の知識・理論について理解を深め、国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能（他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力を含む）を駆使することができる。 (4) 研究遂行能力 ・問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科国際医療協力専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、国際保健学研究・国際医療研究・国際福祉研究の3つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培うために ・世界諸地域に関する知識を広め、理解を深めるために「人類生態学特論」、「感染症・寄生虫学特論」、「国際社会保険特論」などの科目を配置する。 ・高度な理論を身につけるために「環境経済学特論」、「医療経済学特論」、「国際児童福祉特論」などの科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的に分析し問題を処理する能力を培うために ・課題の理論的・実証的分析技能と問題の処理能力を高めるために「保健医療研究法Ⅰ、Ⅱ」、「環境保健学特論」、「医療協力関連法規論」、「高齢者福祉特論」などの科目を配置する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために ・世界諸地域に対する保健医療福祉分野の国際協力に必要な幅広い知識と理論を修得し、高度専門職業人に必要な諸技能を身につけるために「国際疫学特論」、「医療社会学特論」、「福祉サービス管理特論」などの科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことのできる研究遂行能力を培うために ・自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を生かす能力を身につけるために、コースワークを踏まえたリサーチワーク「論文指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会で多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 論文公開発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身につけているかを測定する。	国際協力研究科国際医療協力専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際医療協力に対する高い関心 ・世界諸地域のさまざまな保健医療福祉問題について関心が高く、その改善に情熱を持ち、効果的で望ましい国際協力のあり方を探求している人 (1-2) 研究、問題解決への意欲 ・国際社会で発生する様々な保健医療福祉問題について自ら課題を見つけようとする意欲がある人 ・研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的に分析して解明する能力・技術を修得し、研究成果を実践活動に生かして国際保健医療福祉に関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 ・国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 国際医療協力の実践に必要な論理を修得する知識と能力を有している。（知識） (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得しようとする意欲と能力を備えている。（態度・思考力・判断力） (2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている。（態度・技能） (2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と基礎的な能力を備えている。（研究遂行能力） (3) 入学選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験（英語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験（日本語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文および面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4) 国際協力特別選抜 面接および青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 国際協力研究科（博士前期課程）国際言語コミュニケーション専攻 ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。 国際言語コミュニケーション専攻は、国際社会にあって特に強い要請のある英語及び中国語を対象言語とし、通訳や翻訳をはじめとする言語コミュニケーションの専門分野に熟達して、理論と実践、幅広い知見と深い洞察をもとにこの分野の先導的な役割を担うことのできる高度専門職業人の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科国際言語コミュニケーション専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、国際社会の中の日本において各方面からの要請が強い中国語と英語を対象言語として、日中通訳翻訳研究・英語コミュニケーション研究の2つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 高度な知識・理解・理論の展開能力 ・国際言語コミュニケーションの実践に必要な論理を国際性を持って展開できる。 (2) 課題の発見・分析・処理能力 ・国際社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的に分析して問題を処理することができる。 (3) 高度専門職業人としての能力 ・言語を軸とする各種の社会的・文化的国際交流について理解を深め、国際協力推進に先導的な高度専門職業人として必要な諸技能(他人を納得させることができるコミュニケーション能力や情報発信能力を含む)を駆使することができる。 (4) 研究遂行能力 ・問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科国際言語コミュニケーション専攻では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、国際社会の中の日本において各方面からの要請が強い中国語と英語を対象言語として、日中通訳翻訳研究・英語コミュニケーション研究の2つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を実施する。それぞれの専門分野における優れた研究者、高度専門職業人の養成のために必要なカリキュラムを体系的に構築する。また、問題解決には広い視野と学際的識見が求められることから、専攻する専門分野以外の科目の履修を認める。 教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1) 教育内容 (1-1) 国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培うために ＜日中通訳翻訳研究＞ 日中通訳・翻訳に係る理論や技法を修得するために「日中通訳概論」「日中翻訳概論」「日中逐次通訳特論」「通訳理論と技法特論(中国語分野)」「翻訳理論と技法特論(中国語分野)」などの実践的科目を配置する。 ＜英語コミュニケーション研究＞ 英語コミュニケーションを単なる技法にとどまらず、さまざまな関連要素への理解を伴った「生きた英語」として活用する能力を修得するために「英語コミュニケーション概論」「テキスト言語学特論」などの科目を配置する。 (1-2) 国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的に分析し問題を処理する能力を培うために 国際社会において発生する様々な課題を理論的かつ実証的に分析して的確に処理できる能力を修得するために、「英語学特論」「応用言語学特論」などの科目を配置する。 (1-3) 国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために 言語を軸とする各種の社会的・文化的国際交流・貢献に卓越した専門性と実践的運用能力を持ってあたることのできる高度専門職業人に必要な諸技能を身につけるために、「国際言語文化論(中国語分野)」「日中比較文化論」「国際言語文化論(英語分野)」「日英比較言語社会学特論」などの科目を配置する。 (1-4) 問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことのできる研究遂行能力を培うために 自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を生かす能力を身につけるために、コースワークを踏まえたリサーチワーク「論文指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」などの科目を配置する。 (2) 教育方法 (2-1) 高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2) 課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3) 研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会で多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3) 成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA(Grade Point Average)で評価する。 (3-2) 論文公開発表会、修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	国際協力研究科国際言語コミュニケーションは、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1) 求める学生像、資質 (1-1) 国際言語コミュニケーションに対する高い関心 通訳や翻訳をはじめとする言語コミュニケーションの分野に関心があり、理論と実践、幅広い知見と深い洞察をもとにこの分野の先導的な役割を担うのに適した問題意識と能力を有する人 (1-2) 研究、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的に分析して解明する能力・技術を修得し、研究成果を実践活動に生かして言語コミュニケーションに関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3) 高度専門職業人への意欲 国際協力を先導的に推進する高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2) 求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)及び「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1) 入学後の修学に必要な基礎学力としての外国語能力を身につけている。具体的には、以下に述べる能力を身につけている。(技能) ＜日中通訳翻訳研究＞ 「日本語能力試験 N1」以上、または「HSK5 級」以上。 ＜英語コミュニケーション研究＞ 「実用英語技能検定準1級」、「TOEIC600 点以上」のいずれか、若しくは「TOEFL61 点(BT)、173 点(CBT)、500 点(PBT)以上」または、「IELTS5.0 以上」 (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得しようとする意欲と能力を備えている。(態度・思考力・判断力) (2-3) 高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている。(態度・技能) (2-4) 自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と能力を備えている。(研究遂行能力) (3) 入学選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1) 一般選抜 外国語試験(英語＜英語コミュニケーション研究＞あるいは中国語＜日中通訳翻訳研究＞)、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2) 留学生特別選抜 外国語試験(日本語)、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3) 社会人特別選抜 小論文、面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4) 国際協力特別選抜 面接、青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。

杏林大学 国際協力研究科（博士前期課程）グローバル・コミュニケーション専攻

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
国際協力研究科は、国際社会において発生する様々な課題を、法律、政治、経済、経営、文化交流、言語、医療、保健衛生など多くの側面から学際的に把握し、理論的かつ実証的に問題を分析して的確に処理できるような人材を育成し、国際社会に対する支援・協力を推進することを目的とする。国際言語コミュニケーション専攻は、国際社会にあって特に強い要請のある英語及び中国語を対象言語とし、通訳や翻訳をはじめとする言語コミュニケーションの専門分野に熟達して、理論と実践、幅広い知見と深い洞察をもとにこの分野の先導的な役割を担うことのできる高度専門職業人の養成を目的とする。	国際協力研究科の教育目標 世界諸地域に関する専攻分野での高度な科学的知識、豊かな教養を身につけ、高い研究意欲と積極的な行動力を養い、国際協力の実践場面で活動できる能力を培う教育を目標とする。	国際協力研究科グローバル・コミュニケーション専攻では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらをすべて修得したと認められる学生に、修士（学術）の学位を授与する。 (1)高度な知識・理解・理論の展開能力 ・グローバル・コミュニケーションの実践に必要な論理を国際的知見、異文化間的視座をもって展開できる。 (2)課題の発見・分析・処理能力 ・国際社会および多文化共生社会で発生する様々な課題を自ら発見し、理論的・実証的に分析して問題を処理することができる。 (3)研究者や高度専門職業人としての能力 ・国際協力推進に先導的な役割を果たす優れた研究者ないし高度専門職業人に必要な諸技能（異なる文化・社会に属す他者との相互理解を可能にするコミュニケーション能力や情報発信能力を含む）を駆使することができる。 (4)研究遂行能力 ・問題解決に向け高い倫理観を持って自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことができる。	国際協力研究科 グローバル・コミュニケーション専攻では、国内外で進展するグローバル社会に生じる諸問題に対応し、異文化間で活躍する優れた研究者および高度専門職業人を養成する目的から、日中通訳翻訳研究、英語研究および日本語研究の3つの専門分野を設け、コースワークとリサーチワークを配置している。それぞれの専門分野で要求される専門的職業ニーズに応えられるようカリキュラムを構築しており、また併せて、各専門分野には他分野設置科目を履修する際の壁はなく、それぞれの言語文化的特徴を客観的・学問的に考察することが可能である特徴を備えている。教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。 (1)教育内容 (1-1)国際協力に必要な幅広い知識と深い理解および高度な理論を培うために 「言語学特論」、「対照音韻学特論」、「日中通訳概論」、「日中翻訳概論」、「日中逐次通訳特論」、「通訳理論と技法特論（中国語分野）」、「英語コミュニケーション概論」、「テキスト言語学特論」などの科目などを配置する。 (1-2)国際社会で発生する様々な課題を理論的・実証的に分析し問題を処理する能力を培うために 「言語文化相関論」、「日本語文化特論」、「日本語教育特論」、「英語学特論」、「応用言語学特論」などの科目を配置する。 (1-3)国際協力推進に先導的な高度専門職業人に必要な諸技能を培うために 「日本文化特論」、「日中比較文化論」、「国際言語文化論（英語分野）」、「日英比較言語社会学特論」などの科目を配置する。 (1-4)問題解決に向け自立して研究課題を設定し、研究活動の実践によりその成果を生かすことのできる研究遂行能力を培うために コースワークを踏まえた上で、論文指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどのリサーチワークを履修することにより、自立した研究課題の設定能力・研究活動の実践により得られた成果を活かす能力を身に付ける。 (2)教育方法 (2-1)研究者、高度専門職業人としての能力を修得するために ・少人数体制による双方向性の教育を実施する。 ・課題に対する学生のプレゼンテーションや集団討論を重視した授業を積極的に取り入れる。 (2-2)課題の発見・分析・処理能力を修得するために ・問題発見能力を修得できる能動的学修（アクティブ・ラーニング）を取り入れた科目を積極的に導入する。 ・外部の識者を招聘し、豊富な経験から得られた優れた知見に触れる特別講義・講演会を実施する。 (2-3)研究遂行能力を修得するために ・指導教員が、きめ細やかに研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。 ・論文公開発表会で多様な専門分野の教員が指導することで、専攻横断的に研究遂行能力を高める。 (3)成果の測定 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上まっているかを測定する。 (3-1) 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA（Grade Point Average）で評価する。 (3-2) 論文公開発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身についているかを測定する。	国際協力研究科グローバル・コミュニケーション専攻は、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には、次のような資質を持つ学生を求めている。 (1)求める学生像、資質 (1-1)グローバル社会における適性と高い関心 日本と外国の文化に興味と関心があり、高い言語運用力とグローバルな視点から国際感覚、国際協調、多文化共生の精神を身につけようと努力する人 (1-2)研究、問題解決への意欲 研究課題に対して科学的にアプローチし、理論的・実証的に分析して解明する能力・技術を修得し、研究成果を実践活動に生かして異文化間コミュニケーションに関する問題を解決したいという意欲がある人 (1-3)研究者、高度専門職業人への意欲 国際協力や多文化共生を先導的に推進する優れた研究者、高度専門職業人を目指し、それに必要な諸技能を修得したいという意欲が高い人 (2)求める学習成果 「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）及び「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を求める。 (2-1)グローバル・コミュニケーションを国際的知見、異文化間的視座をもって実践するに必要な論理を修得する知識と能力を有している。 (2-2) 課題を自ら発見し、分析して問題を処理する技能を修得しようとする意欲と能力を備えている。 (2-3)研究者、高度専門職業人として必要な諸技能を修得する意欲と能力を備えている。 (2-4)自立して研究課題を設定・遂行し、その成果を生かす技能を修得する意欲と能力を備えている。 (3)入学者選抜の基本方針 本専攻の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下のとおり入学者選抜を実施する。 (3-1)一般選抜 外国語試験（専門分野により英語または中国語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-2)留学生特別選抜 外国語試験（日本語）、専門科目、面接等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-3)社会人特別選抜 小論文、面接、成績証明書等の内容から、学習成果を総合して評価する。 (3-4)国際協力特別選抜 面接、青年海外協力隊などの国際貢献活動を行ってきた経験と研究計画との関連性についてまとめた概要書等の内容から、学習成果を総合して評価する。